

平成27年度 事業報告書 平成27年度 決算書

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

のびのび育て！くぬぎっ子～



～誰もが住み慣れた地域で安心して
暮らし続けることができるまちづくりをめざして～

社会福祉
法人

大牟田市社会福祉協議会

平成 27 年度

事 業 報 告 書

～平成27年度 事業報告～

平成27年度は、第3次大牟田市地域福祉計画・地域福祉実践計画（平成27年度～平成31年度までの5年間）の初年度でありました。

第3次大牟田市地域福祉実践計画の重点項目には、生活困窮者自立支援法施行に基づき、生活困窮者セーフティーネット（包括的・個別的な支援や早期的・継続的な支援等）の役割を担っていくこと、また2025年を見据えた地域包括ケアシステムの構築に向けての仕組みづくりが盛り込まれており、本会は、2025年までの助走期間として、大牟田市とともに、3つの基本目標を定めて事業展開していくこととしました。

【基本目標1】つながりを育むひとづくり

【基本目標2】みんなで支え合う地域づくり

【基本目標3】生活課題の解決に向けた包括的な仕組みづくり

このような計画のもと、平成27年度は『今、社協が求められているものは何か？』をテーマに様々な事業展開を行ってまいりました。

主な事業の取り組みとして、

- ① 平成26年度から準備を進めてきた「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会」の設立に至ったこと、新たに「生活困窮者レスキュー事業」を開始させたこと
- ② 大牟田市より受託した生活困窮者自立支援事業で、「生活支援相談室」を総合福祉センターに開設させたこと
- ③ 大牟田市より受託した生活支援コーディネーター設置事業で、生活支援コーディネーターのあり方や役割・使命について研究するとともに、生活支援サービスを充実させるために必要な措置を講じたこと
- ④ 日常生活自立支援事業について、福岡県社会福祉協議会から委託され、基幹的社會福祉協議会に指定されたこと
- ⑤ ゴミ屋敷、子ども食堂、ひきこもり支援、空き家対策、食料支援（フードバンク）等の社会的課題に多職種・多分野で取り組み始めたこと
- ⑥ 平成27年10月、歴木保育所（平成24年4月、大牟田市より移譲）に新たな子育て支援施設として新園舎をオープンさせたこと

一方で、

- ① 平成26年12月にオープンした“まちの縁側「築町えいる」”が、予想以上に経営が厳しく、休止に追い込まれたこと
- ② 平成24年1月にオープンした“市立病院ホスピタルローソン”についても、収益事業として開始したが、経営状況が厳しく、昨年度のほっとリビングの廃止に続き、ホスピタルローソン事業からの撤退もやむを得ない状況となり、ローソンとのフランチャイズ契約解除の手続きに至ったこと

以上を踏まえ、平成27年度の事業報告については次のとおりです。

1. 地域福祉の推進

(1) 校区社会福祉協議会活動への支援

① 校区社会福祉協議会会长連絡協議会との連携強化

(ア) 校区社会福祉協議会会长連絡協議会が新たに設けた研修部と連携・協働して、校区社会福祉協議会が主体となって取り組む地域福祉活動の充実に資する研修会を実施した。

実施日	内容等
平成27年 8月10日	校区社会福祉協議会会长 研修会 「平成27年度大牟田市社会福祉協議会事業計画について」 「生活困窮者の支援について」 講師：大牟田市社会福祉協議会 職員 「地域包括ケアシステムについて」 講師：大牟田市 長寿社会推進課主査 内山勝司氏 ・場所：総合福祉センター 大会議室 ・参加：校区社会福祉協議会会长 19人
平成27年 12月8日	校区社会福祉協議会会长 研修会 「生活困窮者の把握や対応をどのように進めていくのか」 講師：うきは市社会福祉協議会 國武竜一氏 ・場所：イオンモール大牟田 2F イオンホール ・参加：校区社会福祉協議会会长 18人

(イ) 校区社会福祉協議会会长連絡協議会と連携・協働して、校区社会福祉協議会が主体となって取り組む地域福祉活動の推進に活用できるツールを作成した。

作成物	配布先・作成部数
小地域ネットワーク活動啓発用DVD	校区社協等・30枚
ふれあいサロン活動紹介用冊子	校区社協等・200冊

② 校区福祉力アンケート調査の実施

各校区の校区社会福祉協議会構成員を対象に、校区福祉力に関するアンケートを実施した。地域活動での共通の課題は、「地域内のネットワーク」であることが明らかになった。また、前回（平成23年実施）の調査と比較すると、「専門機関とのつながり」「活動状況」は得点が高くなった。

実施期間	調査方法	対象人数	回答者数	回答率
平成27年11月	質問紙郵送調査	800人	502人	62.8%

③ 地域リーダー研修会の実施

近年、ひきこもり、社会的孤立、孤独死、ごみ屋敷、育儿困難、失業後の再就職困難等、これまでの社会福祉事業や制度では支援することが難しい「制度の狭間となっている問題」や「複合的な課題」を抱える人が増加している。私たちの地域においても、何らかの手助けや支援を必要としている人たちが増えている。また、人と人とのつながりが希薄になり、社会的に孤立する人も増えている。

これらの問題や課題の解決をめざして、校区の社会福祉協議会会长や民生委員・児童委員協議会会长、町内公民館連絡協議会会长、まちづくり協議会会长が、一堂に会し、多様化する福祉課題・生活課題の解決方法を考える研修会を実施した。



地域リーダー合同研修会の様子

実施日	内容等
平成 27 年 11月27日	<p>「人と人とのつながりを大切に～助けあいのまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第1部：ワークショップ 「生活困窮者のイメージとは？」 メイン・ファシリテーター：大牟田市社会福祉協議会 職員・ 第2部：制度解説 「生活困窮者支援制度と大牟田市の現状について」 講師：大牟田市社会福祉協議会 職員・ 第3部：ロールプレイ 「地域の支え合いについて考えてみましょう」 メイン・ファシリテーター：大牟田市社会福祉協議会 職員・ 第4部：実践紹介 「地域支えあいマップを活用した取り組み」 発表者：天の原校区社会福祉協議会会长 三浦紀子氏・ 場所：大牟田ハイツ 芙蓉の間・ 参加：会長、地域包括支援センター職員、行政職員等 95 人

④ 校区社会福祉協議会研修会及び福祉座談会の支援

支援形態	支援校区数	実施回数	内容
内容に対する助言、制度等の説明など	10 校区	13 回	生活困窮者自立支援制度等について

⑤ 校区社会福祉協議会会長連絡協議会広報紙発行の支援

校区社会福祉協議会会長連絡協議会が新たに設けた広報部と連携して、校区社会福祉協議会が主体となって取り組む地域福祉活動を紹介する校区社協会長会だより「つながり」ならびに各校区社協だよりの発行を支援した。

「つながり」発行方法	発行部数	発行月
大牟田市社会福祉協議会「福祉だより “きらり”」記事掲載	55,000 部	4月、7月、10月、1月

(2) 小地域ネットワーク活動の支援

① 福祉委員などによる見守り・訪問活動の推進

(ア) 福祉委員の設置

校区内の福祉に関する組織・団体および民生委員・児童委員等と連携を密にし、校区住民の協力を得ながら地域福祉活動を行う福祉委員を設置した。

設置基準	定数	設置人数	充足率
各校区の世帯数に応じ、100～150世帯に1人の割合で設置	372人	366人	98%

(平成28年3月31日現在)

(イ) 校区社会福祉協議会会長連絡協議会と連携・協働して、見守り・訪問活動の推進に活用できる視聴覚教材「小地域ネットワーク活動啓発用DVD」を作成し、全校区社会福祉協議会に配布した。

② 福祉委員研修会の実施

(ア) 新任福祉委員研修会の実施

見守り・訪問活動を中心とした小地域ネットワーク活動に対する理解を深め、福祉委員活動の役割を学ぶことを目的に研修会を開催した。



新任福祉委員研修会の様子

実施日	内容等
平成27年 7月9日	<ul style="list-style-type: none">活動説明：福祉委員の活動について実践紹介：平原校区 福祉委員 宮本攻氏場所：総合福祉センター 中会議室参加：新任福祉委員 14人

平成 27 年 7月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動説明：福祉委員の活動について ・実践紹介：羽山台校区 福祉委員 福井和子氏 ・場所：総合福祉センター 中会議室 ・参加：新任福祉委員 15 人
平成 27 年 7月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動説明：福祉委員の活動について ・実践紹介：倉永校区 福祉委員 稲又ミチヨ氏 倉永校区 民生委員 湯村剛太郎氏 ・場所：総合福祉センター 中会議室 ・参加：新任福祉委員 10 人

(イ) 福祉委員フォローアップ研修会の実施

福祉委員の活動と「生活困窮者自立支援」の関連性や、どのような声かけや見守りをしたらよいのかについて学ぶ研修会を実施した。

参加者からは、「かかわり方のヒントをもらえた」や「地域の声を聞くことの大切さを再認識した」等の感想があり、生活困窮者の把握や対応について理解を深めることができた。



フォローアップ研修会の様子

実施日	内容等
平成 27 年 12月 8 日	<p>「生活困窮者の把握や対応をどのように進めていくのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：うきは市社会福祉協議会 國武竜一氏 ・場所：イオンモール大牟田 2F イオンホール

(3) ふれあいサロン活動の充実

① ふれあいサロン活動の活性化

ふれあいサロンは、地域で高齢者や障がい児・者、子育て中の方が、生きがいや元気に暮らすきっかけを見つけたり、地域住民同士のつながりを深めたりする自主活動の場として、市内 129 カ所で活動している。

区分（参加対象者）	H27 年度登録数	前年度比	
多世代	2 カ所	0 カ所	100%
高齢者	119 カ所	6 カ所増	105%
障がい者	2 カ所	0 カ所	100%
子ども・子育て中の保護者	6 カ所	1 カ所増	120%
合 計	129 カ所	7 カ所増	106%

② ふれあいサロン連絡会の実施

サロン代表者対象のアンケートでは、「サロンのメニューに困っている」ことが明らかになった。そこで、サロン活動の活性化につなげることを目的に、連絡会の内容を工夫して開催した。

第1回連絡会後には、参加者から「ぜひサロンで体験したい」との声をいただき、いくつかのサロンで出張講座の開催に結びついた。

第2回連絡会後には、参加者から「サロンにすぐ活用できそう」「高齢でもできそう」との声をいただき、いくつかのサロンからメニューの問い合わせや申し込みがあった。

実施日	内容等
平成27年 9月24日	第1回「ふれあいサロン活動のメニューを増やそう」 ・出前講座メニュー紹介・実践体験
9月25日	赤い羽根共同募金 募金百貨店おおむた 加盟6店舗 ・会場：総合福祉センター 中会議室・大会議室 ・参加：登録サロンお世話役・代表者等 94名

平成28年 3月15日	第2回「ボランティア団体の活動内容って？～サロンで活かせるメニュー体験～」 ・活動紹介：社協ボランティアセンター登録団体2団体 ・会場：総合福祉センター 中会議室・大会議室 ・参加：登録サロンお世話役・代表者等 111名
----------------	---



第1回サロン連絡会



第2回サロン連絡会

(4) 生活支援コーディネーター設置事業（市受託事業）

① 生活支援コーディネーターあり方検討会の開催

地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援体制を整備することを目的に、協議体の設置ならびに生活支援コーディネーターが配置されることとなった。この設置事業を、大牟田市から委託を受け実施した。

新たな事業であることから、以下のとおり検討会を設置し、協議体と生活支援コーディネーターのあり方等について検討を進め、事業の具現化を図った。

実施日	内容等
平成 27 年 5月 18 日	検討会の目的とめざす地域像を共有した。
平成 27 年 6月 30 日	地域のニーズならびに地域の資源を把握するための効果的な方法、実施主体・連携組織、活動上の留意点について明らかにした。
平成 27 年 7月 13 日	下記①～③に、生活支援コーディネーターが、誰と（組織・個人）一緒に取り組んだら効果的なのかを明らかにした。 また、①～③に取り組む協議体に、誰の（組織・個人）参画を得ることが必要なのかを明らかにした。 ① 高齢者の生活支援ニーズを把握する。 ② 地域の生活支援活動や生活支援サービスを把握する。 ③ 地域の生活支援活動やサービスを拡充する。また、不足している活動やサービスを創出する。
平成 27 年 8月 18 日	検討内容を報告書にまとめた。

② 生活支援コーディネーターの配置

市全域における生活支援・介護予防体制整備を目的として、生活支援コーディネーターを配置した。

(ア) 生活支援コーディネーターへの支援・助言及び研修の実施

大牟田市社会福祉協議会ならびに地域包括支援センターに配置された生活支援コーディネーターが、情報共有や課題設定をすることを目的とした会議やワークショップ、他市町村の取り組み事例や制度について学習することを目的とした研修会を実施した。



生活支援コーディネーター間の連携

(イ) 生活支援サービス開発・充実に取り組む団体等への支援・助言

地域の商店の閉店に伴い、移動販売を希望する校区と移動販売に取り組む法人との調整や、大牟田市居住支援協議会が支援する空き家を活用した地域の交流拠点づくり事業への参加など、地域の特性に合った生活支援・介護予防体制整備に取り組んだ。



コーディネーターと行政職員の学習会

(5) 福祉教育の推進

① 夏休み子どもふれあいふくし塾の実施

子どもたちが、地域の福祉委員等と一緒に、「見守り訪問活動」や「サロン」を体験することで、「住民が、住民と相互に支え合うこと」の大切さを学んだ。

実施日	内容等
平成 27 年 8月 20 日	<p>「福祉に携わる人を取材して！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話「ふくしとは、福祉委員の役割とは、サロンとは」 ・ 体験「福祉委員さんへのインタビュー」「見守り訪問活動」「サロン活動」、自由研究作成 ・ 講師：平原校区福祉活動実践者（福祉委員、サロン参加者等） ・ 場所：総合福祉センター、瓦町公民館等 ・ 参加：小学生等 8 人



見守り訪問活動の様子



サロン体験の様子



② 福祉教育のコーディネートと講師派遣

児童・生徒の福祉教育の推進を目的とし、大牟田市視力障害者福祉協会、大牟田聴覚障害者福祉協会、大牟田手話の会「ありあけ」の協力を得て、講師（ゲストティーチャー）として派遣した。また、点字指導では、点訳奉仕大牟田むつき会の協力を得た。

	総件数	小学校	中学校	高等学校	その他
派遣件数	18	18	0	0	0

③ 福祉教育教材の貸出

福祉教育用いてもらうため、小・中学校や高校、事業所に高齢者疑似体験セット・車椅子・アイマスク・白杖・ビデオ等を貸し出した。

	合計	小学校	中学校	高等学校	その他
貸出件数	17 件	11 件	3 件	1 件	2 件
区分	疑似体験セット	車いす	アイマスク	白杖	DVD・ビデオ
小学校	18	24	70	35	8
中学校	12	16	30	30	0
高等学校	1	0	0	0	0
その他	6	0	0	0	0
合計	37 セット	40 台	100 枚	65 本	8 本

2. 子育て支援事業の推進

(1) 子育て支援の充実

① 子育てきらりフェスタの開催

第1回目は防災をテーマに、第2回目は気になる子どもへのアプローチをテーマに、講演会を実施した。また、ボランティア団体や母親たちの特技や意見を取り入れた体験活動の場を協働で実施した。

実施日	内容等
平成27年 8月2日	<p>子育てきらりフェスタ Vol.20</p> <ul style="list-style-type: none">・講演会「家族の命を守る！今からできる防災」 講師：防災士 柳原志保さん・体験：身近な物でスリッパ・マスク・オムツ作り、スイーツデコ、なりきり写真撮影会、いざという時の簡単アイデアレシピ、煙ハウス、水消火器体験、はしご車体験 等・協力：日本赤十字社福岡県支部、大牟田市消防本部、little mama、・場所：総合福祉センター・参加：約200人  <p>身近な物でオムツ作り</p>
平成28年 3月6日	<p>子育てきらりフェスタ Vol.21</p> <ul style="list-style-type: none">・講演会「ポジティブに、認めて、伝える、楽しむ子育て」 講師：帝京大学福岡医療技術学部 理学療法学科 堀裕さん・体験：レジン、ジュエルデコレ、スイーツデコ、石鹼デコパージュ、パステルアート 等・協力： little mama・場所：総合福祉センター・参加：約300人  <p>パステルアートでリラクゼーション</p>

② 子育てサロン「マザーリーフ」の実施

子育て中のお母さん同士の情報交換の場や子どもとのふれあいの場として毎週水曜日（第5週は除く）に開催した。

	年間参加者数	各回平均参加者数	前年比	参加者総数
大人	138人	2.8人	47%	341人 (44%)
子ども	154人	3.2人	37%	
ボランティア	49人	1.0人	67%	

③ チャイルドシートの貸出

保有台数		貸出総件数	前年度比
チャイルドシート	ジュニアシート		
26台	9台	231	126%

④ 情報掲示板「Babecle（ベビクル）」の運営

使わなくなった育児用品を譲りたい人から必要な人に渡すために、ホームページで情報を提供した。取扱い件数は、相談含めて4件であった。

⑤ 産前産後ケアサポート・ママ養成講座の実施

近くに親兄弟など頼る人もなく一人で産前産後の不安定な時期を過ごさねばならない方が安心して楽しく育児ができるよう、日常生活をお手伝いするサポートママを養成する講座を実施した。講座は、「おおむたキャロットサービス協力会員養成講座」と同時開催とした。

(2) ファミリー・サポート・センター事業の実施（市受託事業）

① 会員の登録及び活動

区分	登録会員数	前年度比	活動回数（キャンセル数）
利用会員	681人	93%	896回（90回） 前年度比：98%
協力会員	85人	102%	
相互会員	78人	104%	
合計	844人	95%	

（平成28年3月31日現在）

② 会員養成講座の実施

実施日（回数）	内容等	新規登録者数
平成27年 6月（全5回）	第1回 協力会員養成講座 ・受講：延49人	・協力会員：5人 ・相互会員：2人
	第2回 協力会員養成講座 ・受講：延31人	・相互会員：2人
平成27年 11月（全6回）		

③ ステップアップ講座の実施

実施日	内容等	受講者数
平成27年 11月6日	第1回ステップアップ講座 「なぜ今、地域にファミサポが必要なのか」	7人
平成28年 3月12日	第2回ステップアップ講座 「関わりがむずかしい子どもとのつきあい方」	5人

④ 安全対策講習会の実施

実施日	内容等	受講者数
平成 27 年 10月 28 日	「乳幼児の救急救命講座～大切な命を守るために心肺蘇生法や AED の使い方を学ぼう～」	10 人

(3) 放課後児童健全育成事業等の実施（市受託事業）

① 学童保育所・クラブの運営（三池・高取・中友・白川・大牟田・平原）

放課後児童対策として、扈間児童の養育ができない家庭などの児童に対して、適切な遊びと生活の場を提供するとともに、各学童保育所においては、地域組織等と連携し様々な世代間交流事業を実施した。

学童保育所名	三池	高取	中友	白川	大牟田	平原	計
児童数（人）	40	26	25	38	40	32	201

（平成 28 年 3 月 31 日現在）



日赤献血セミナーの様子



親子陶芸教室の様子



救命救急講習会の様子

② 6学童交流行事の実施

大牟田市社会福祉協議会が運営する 6 つの学童保育所・クラブの交流行事として実施した。

実施日	内容等	場所	参加者数
平成 27 年 10月 24 日	「学童っ子のつどい」 ・スタンプラリー	諏訪公園 イベント広場	234 人

③ 大牟田市学童保育所等未整備校区における児童送迎の実施

学童保育所が整備されていない上官小学校の児童（1、2 年生）を対象に、上官小学校・中友学童保育所間の送迎を実施した。

利用者	年間利用日数
小学校 2 年生 1 人	190 日

(4) くぬぎ保育所の運営

① くぬぎ保育所新園舎の完成

「新園舎建設検討委員会」を設置し、平成27年3月に着工した新園舎建設が、工事期間中、住民の方々にもご協力いただきながら、平成27年10月に完成した。送迎用の駐車場の確保・整備、ランチルームの完備等により、今まで抱えていた課題を解決することができた。

また、子育てに悩みや不安を抱えている保護者の拠り所として、保育所に足を運んでもらい子育て不安の軽減を図った。

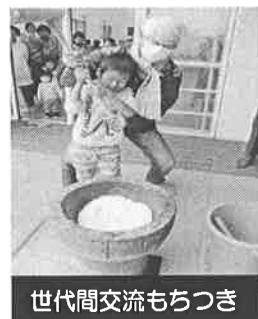
② くぬぎ保育所の運営

年度初めは92名でスタートし、年度末には117名の園児が在籍した。保育方針である「自然の中で心と体を使って思いっきり遊ぶこども」に基づき、障がい児との統合保育、食育の推進、農業体験（田植え・稻刈り）を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H26	94	94	94	94	94	96	97	98	101	101	103	106
H27	92	94	97	99	103	105	107	110	111	117	117	117



田植えの様子



世代間交流もちつき



新園舎落成式の様子

3. 高齢者福祉サービス事業の推進

(1) 住民参加型福祉サービス(おおむたキャロットサービス)の充実

① おおむたキャロットサービス会員の登録・活動の調整

日常生活において、公的サービスでは対応できない生活課題を抱えている一人暮らし高齢者等に対し、サポーター登録した協力会員が生活支援サービスを行った。活動件数は年々増え続け、高齢者等の在宅生活の充実に大きく寄与した。しかし、活動を担う協力会員は前年度より減少した。今後、介護保険制度の見直しにより活動依頼が増加することが考えられるため、協力会員を増やしていくかなければならない。

(ア) 会員の登録

区分	H27 年度登録者数	前年度比	
利用会員	130 人	2 人増	102%
協力会員	35 人	16 人減	69%
合計	165 人	14 人減	92%

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(イ) 活動の調整

		H27 年度件数			前年度比						
活動件数		2,184 件			443 件増			125%			
家事支援		買物	葉 受取	通院 外出 付添	見守 り	話し 相手	草 とり	ゴミ 出し	その他		
掃除 洗濯	食事 作り								修繕 など	その ほか	産前 産後
1,677	172	92	17	30	0	8	98	2	12	76	0

② おおむたキャロットサービス協力会員交流会の実施

情報交換を通して協力会員同士の親睦・連携を深め、活動の充実を図ることを目的として実施した。また、関係する制度等について情報を提供することによって、活動に対する意欲の向上を図った。

実施日	内容等
平成 27 年 4 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話「生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加」 講師：大牟田市 長寿社会推進課 ・ 情報交換、意見交換 ・ 参加：会員 21 人

③ おおむたキャロットサービス協力会員視察研修の実施

市外で同様の活動をしている団体と意見交換することで、活動への思いや悩みを共有し、今後の活動の充実を図ることを目的として実施した。合志市のまちづくりの取り組みを学ぶことで、個人の生活支援にとどまらず、地域づくりをいかに行っていくのかということを考える機会となった。

実施日	内容等
平成 28 年 1 月 26 日	<p>「合志市社会福祉協議会の取り組み～地域支援の現状と方向性、安心生活（ぼっかぼか）サポート事業について～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視察先：合志市社会福祉協議会 ・ 取組紹介、意見交換 ・ 参加：会員 9 人

④ おおむたキャロットサービス協力会員養成講座の実施

キャロットサービスへの依頼増加に対応するために、協力会員の養成に取り組んだ。

今年度から利用対象に“出産前後の母親”も加えたことから、「産前・産後サポートママ養成講座」を兼ね、高齢者、障がい者、出産前後の母親等を対象に、幅の広い支援を実践することができる人材の養成をめざした。

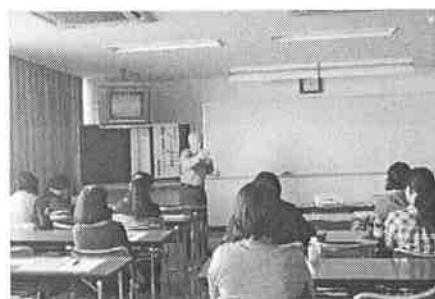
しかし、実際に協力会員としての登録者は3人にとどまった。

今後、介護保険制度の見直しにより依頼が増え続けることが考えられるため、講座の内容やあり方等を検討しながら、協力会員を増やしていく必要がある。

回	実施日	内容等	受講数
1	平成27年 10月27日	「人のつながりをつくるボランティア」 ・講師：筑紫女学園大学 社会福祉コース 教授 山崎安則氏	17人
2	平成27年 10月30日	「住民参加型福祉サービスについて」 ・講師：住民参加型在宅福祉サービス全国連絡会 熊本県幹事 田中将太氏	10人
3	平成27年 11月6日	「これからの地域とキャロットサービス」 ・講師：大牟田市長寿社会推進課 松葉史子氏 大牟田市社会福祉協議会 職員	16人
4	平成27年 11月13日	「久留米市の子育て支援について」 ・講師：松柏子育て支援センター センター長 石井真由美氏	10人
5	平成27年 11月17日	「人との関わり方：傾聴を学ぶ」 ・講師：再評価カウンセリング 九州エリア代表 宮崎真由美氏	12人
6	平成27年 11月20日	「車いす体験・キャロットサービス事業報告」 ・講師：キャロットサービスサブリーダー 大牟田市社会福祉協議会 職員	7人



協力会員交流会の様子



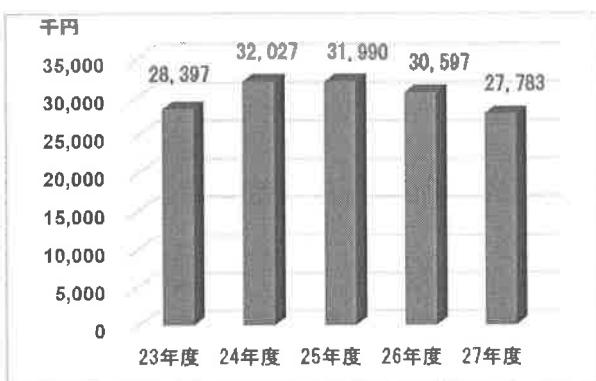
協力会員講座の様子

(2) 高齢者福祉対策の推進

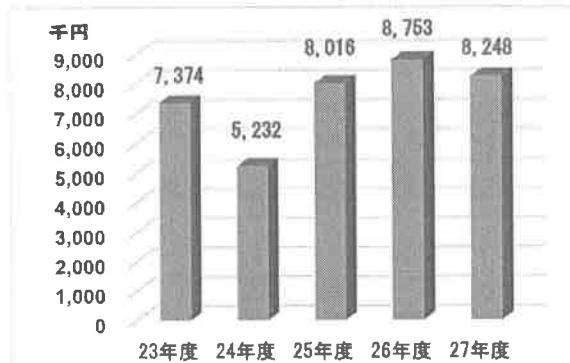
① 介護保険事業の充実

訪問介護（ホームヘルパー派遣）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）、居宅介護支援（ケアプランの作成）、通所介護（デイサービス）の事業を実施し、要支援、要介護者の在宅生活を支援した。

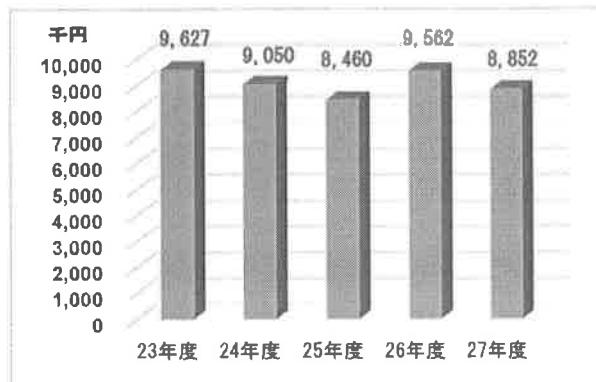
訪問介護事業（ホームヘルプ）実績



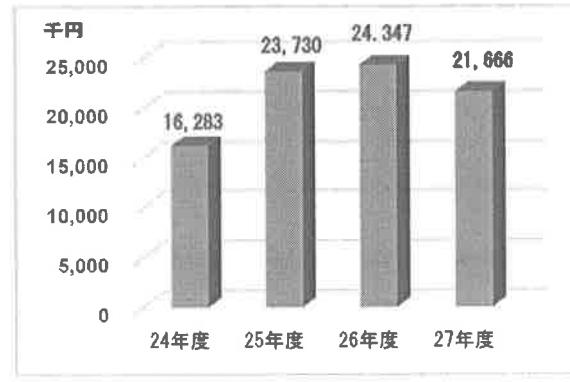
訪問入浴事業（入浴サービス）実績



居宅介護支援事業（ケアプラン）実績



通所介護事業（ふれあいぬえいり）実績



（各年度事業実績）

事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
訪問介護 サービス	収入（円）	28,396,728	32,027,405	31,990,254	30,596,792	27,782,816
	件数（件）	8,239	9,683	9,713	9,275	8,109
訪問入浴 サービス	収入（円）	7,374,639	5,232,207	8,016,180	8,752,500	8,248,060
	件数（件）	549	411	624	689	647
居宅介護 支援事業	収入（円）	9,627,140	9,050,200	8,459,620	9,561,730	8,852,290
	件数（件）	810	847	792	789	867
通所介護 (えいり)	収入（円）	377,423	16,283,080	23,730,030	24,347,220	21,665,861
	件数（件）	36	1,763	2,541	2,886	2,536
通所介護 (築町えいり)	収入（円）	—	—	—	668,485	8,265,388
	件数（件）	—	—	—	98	1,157
総合計	収入（円）	45,775,930	62,592,892	72,196,084	73,926,727	74,814,415
	件数（件）	9,634	12,704	13,670	13,737	13,316

② まちの縁側築町えいる

「まちの縁側築町えいる」は、築町商店街の空き店舗を利用し、大牟田市まちづくり基金事業の補助金を受け、小規模デイサービスセンターとオープンサロンを併設した施設として平成26年12月に開所した。

当初「築町えいる」事業運営は小規模デイサービスで生じた介護報酬をオープンサロンへ還元し、安定的な運営を図るとしていたが、当初計画を下回る事業運営、さらに介護報酬の大幅引き下げも相まって、平成27年11月の理事会、評議員会で事業の全面廃止という決定を受け、平成28年1月20日付で小規模デイサービス事業を休止した。

なお、オープンサロンについては、親子カフェ、認知症カフェ、子ども食堂などの事業を3月末まで実施したところである。

(オープンサロン利用者統計)

サロン活動	子ども食堂	認知症カフェ	その他(※)	計
54	327	33	519	933

※ バス待ちやちょっとした立ち寄りなどで、築町えいるに来所された延べ人数

【平成27年度介護保険事業の総括】

- 訪問介護事業では前年度実績より、事業件数については1,166件減、収入面では2,824千円減となった。
これは毎日利用していた利用者(3名)の施設入所などや介護報酬単価の引き下げが大きな要因となった。
- 訪問入浴事業では前年度実績より504千円減となり、事業件数も42件減となった。
この事業は利用者の出入りが激しいため、その差異が大きな要因であった。
- 居宅介護支援事業では前年度実績より709千円減であったが、事業件数は78件増となった。
これは介護報酬の改定により、昨年までの認知症・独居加算が基礎単価に組み込まれたのが大きな要因である。
- 通所介護(えいる)事業では、前年度実績より2,681千円減となり、延利用件数も350件減となった。
これは介護報酬単価の大幅引き下げ及び築町えいるへ利用者が分散したことが要因と考えられる。
- ※ 5事業合計として、前年度実績と比較すると888千円収入増という結果となった。

③ 介護予防・相談センターの運営（市受託事業）

中央地区地域包括支援センターのサブセンターとして、主に平原・上官校区を担当し介護認定により要支援と認定された高齢者及び二次予防事業対象の高齢者（なんらかの機能低下が見られる高齢者）に対して、介護予防プラン等の作成や訪問を行うことにより高齢者の心身の健康保持、生活の安定のために必要な支援を関係機関、サービス実施事業者と連携して実施した。

また、介護予防の普及・啓発を目的とした介護予防啓発教室や健康相談の場を設け、地域住民の健康増進に努めた。

（各年度事業実績）

事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
介護予防・相談センター	収入(円)	3,779,360	4,853,480	5,982,120	6,485,110	6,218,700
	件数(件)	762	704	956	1,092	969

④ 「在宅介護者の会」の活動支援

在宅介護者に対する情報提供、相互交流を目的とする「在宅介護者の会」の事務局を行い、様々な活動支援を行った。

大牟田市在宅介護者の会「げんきかい」（会員：14名）

在宅介護者が本音で語り合い、交流することを通じて、仲間づくりを行うとともに、「介護」にかかる課題を解決していくことを目的として実施した。介護体験を語るおしゃべり会を中心に、学習会、レクレーションなどを、毎月第4水曜日に実施した。

また、年2回、日帰り温泉旅行など、リフレッシュ事業にも取り組んだ。

⑤ 車椅子貸出事業

在宅の高齢者・障がい（児）者等に対して、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図るため、延104人に無料で車椅子を貸し出した。

⑥ ホームヘルパー研修

実施日	内容等	参加者
平成27年 4月23日	「大牟田市社会福祉協議会事業計画・予算について」 ・講師：大牟田市社会福祉協議会	29人
平成27年 5月20日	「介護保険制度改正のポイントについて」 ・講師：大牟田市社会福祉協議会	34人
平成27年 6月26日	「交通安全教室」 ・講師：大牟田警察署交通課	27人

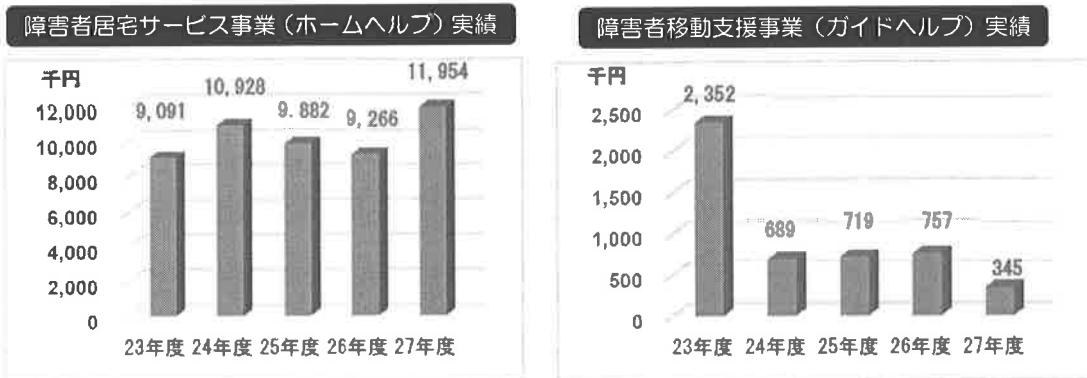
平成 27 年 7月 15 日	「高齢者の低栄養や脱水等の傾向及び対処法について」 ・講師：株式会社 明治 假屋美樹氏	32 人
平成 27 年 8月 30 日	「災害ボランティアセンター設置訓練」 ・講師：大牟田市社会福祉協議会	14 人
平成 27 年 9月 16 日	「リスクマネジメントについて（グループワーク）」 ・講師：大牟田市社会福祉協議会	25 人
平成 27 年 10月 22 日	「障害者への合理的配慮について」 ・講師：大牟田市障害者協議会 事務局長 大場和正氏	22 人
平成 27 年 11月 18 日	「感染予防と対策～インフルエンザ、ノロウイルス等 対策について」 ・講師：大牟田市健康対策課	33 人
平成 27 年 12月 17 日	「メンタルヘルスについて」 ・講師：不知火病院 看護部長 西慶子氏	25 人
平成 28 年 1月 20 日	「高齢者、障害のある人の人権について」 ・講師：大牟田市人権同和対策課	28 人
平成 28 年 2月 25 日	「救急救命講習」 ・講師：大牟田消防署 明治出張所	12 人
平成 28 年 3月 16 日	「大牟田市の歴史について」 ・講師：大牟田市世界遺産・文化財室	35 人

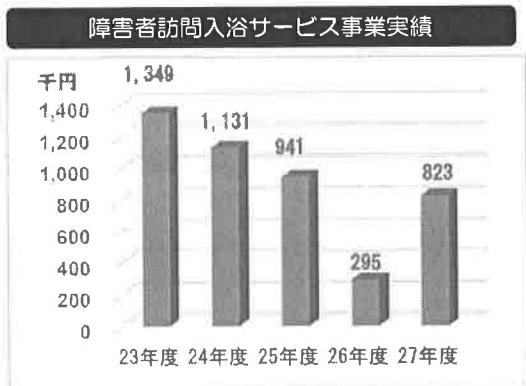
4. 障がい児・者福祉サービス事業の推進

(1) 障害福祉対策の推進

① 障害者総合支援サービス事業

障害区分認定を受けた在宅の障がい者に対して、居宅サービス（ホームヘルパー派遣）、移動支援（ガイドヘルパー派遣）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）、の3事業を実施し、在宅生活を支援した。





(各年度事業実績)

事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
障害者居宅 サービス事業	収入(円)	9,091,037	10,927,730	9,881,849	9,265,680	11,954,138
	件数(件)	2,493	2,726	2,468	2,338	2,118
障害者移動 支援事業	収入(円)	2,351,593	689,370	719,234	757,160	345,095
	件数(件)	687	355	368	385	110
障害者入浴 サービス事業	収入(円)	1,349,000	1,130,500	940,500	294,500	822,700
	件数(件)	142	119	99	31	87
総合計	収入(円)	12,791,630	12,747,600	11,541,583	10,317,340	13,121,933
	件数(件)	3,322	3,200	2,935	2,754	2,315

【平成 27 年度障害者総合支援サービス事業の総括】

- 居宅サービス事業では前年度実績より 2,688 千円増、事業件数については、220 件の減となった。これは、同行援護の利用者が介護無から介護有になったため、報酬単価の増が要因である。
 - 移動支援事業では前年度実績より 412 千円の減。これは、利用者が 2 名から 1 名に減ったことが要因である。
 - 訪問入浴サービス事業では前年度実績より 528 千円増、事業件数も 56 件増となった。これは利用者が 1 名から 2 名に増えたことが要因である。
- ※ 3 事業合計として、前年度実績と比較すると、2,804 千円収入増という結果となった。

② 知的障がい児・者医療支援プロジェクトの支援

平成 27 年度は、大牟田医師会に監修していただき、「発達障がい・知的障がいのある方のための医療支援手帳」を作成した。発達障がいや知的障がいのある方は、医療機関を受診する際、障がい特性ゆえにスムーズな受診ができない状況にあるため、「医療支援手帳」には、障がい特性や医療機関の方々へ

配慮してもらいたい援助法等を具体的にわかりやすく記載する形式になっている。「医療支援手帳」の活用により、医療機関受診をスムーズにする一助になると考えている。また、「医療支援手帳」作成について啓発・紹介を目的に、以下のとおり、セミナーを開催した。

【開催日】平成 28 年 2 月 20 日

【会 場】大牟田市エコサントセンター

【参加者】約 90 人

【内 容】「発達障がい・知的障がいのある人の医療支援セミナー」

第 1 部：講演

「自閉症や知的障害のある人の医療バリアフリー～街の中で安心して暮らすため～」

講師：白梅学園大学 子ども学部 教授 堀江まゆみ氏

第 2 部：シンポジウム

「大牟田市知的障がい児・者医療支援プロジェクトの取り組み～医療支援手帳の作成について～」

コーディネーター：大牟田市障害者協議会 事務局長 大場和正氏

助言者：白梅学園大学 教授 堀江まゆみ氏

シンポジスト：当事者家族 宮崎範子氏、宮崎みち代氏

：大牟田医師会 古賀浩介氏

：大牟田特別支援学校 教頭 所方敏彦氏

③ おもちゃの図書館「くるりん」支援

障がいのある子どもも、ない子どもも共に遊び、交流する場として開催。今年度は、参加された保護者が互いに話をする場として、「ママのほっとタイム」の時間を設けた。子育ての悩みなどを話することで、参加者同士の交流が生まれるきっかけとなった。

【開催日時】毎月第3日曜日 10:00～12:00

【会 場】総合福祉センター 多目的室・和室

【参 加 者】(延べ人数) 大人 73 人 子ども 109 人

④ 自閉症 1 DAY イベントの支援

世界自閉症啓発デーに伴う周知啓発活動として、自閉症児・者等の理解と関心を深めてもらうことを目的に、大牟田市自閉症児者親の会と協働で実施した。

【開催日】 平成 28 年 3 月 24 日【啓発資料展示】3 月 24 日～4 月 8 日

【研修先】 総合福祉センター 多目的室

【内 容】 DVD 上映、本展示コーナー、当事者の話など

【参加者】 約 30 人

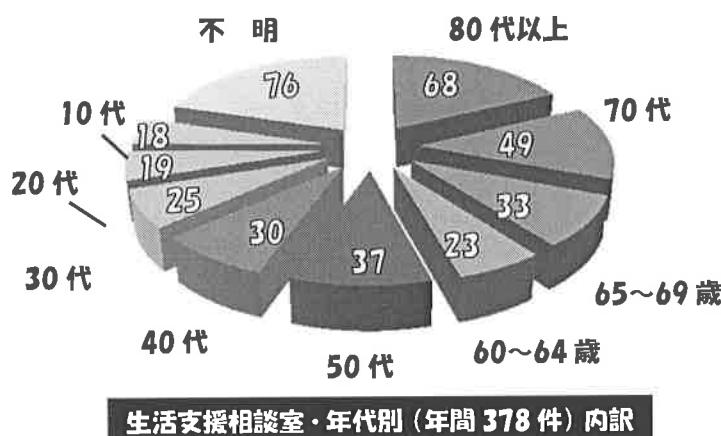
5. 総合生活支援事業の推進

(1) 生活困窮者自立支援法施行に伴う支援事業(市受託事業)

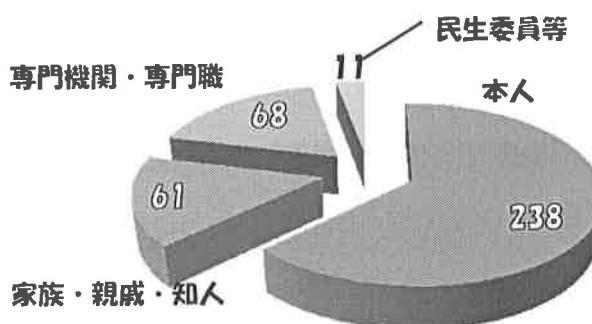
① 自立相談支援事業

平成27年4月に施行された生活困窮者自立支援法における制度の必須事業である「自立相談支援事業」は、大牟田市から委託を受けて1年が経過した。相談件数は、378件で、生活保護世帯57件を加えると年間435件の相談があった。月平均36件の相談となる。

相談者を年代別(年齢不明76件を除く)で見れば、65歳以上が約半数(49%)となっており、80代以上が一番多く(全体の22%)、次に70代(16%)、50代(12%)と続いている。いかにも大牟田市の超高齢化が深刻なのが物語っているデータと言える。



相談経路は、3人に2人の割合(全体の63%)で「本人」からの直接相談を受けており、次に「専門機関・専門職」(18%)、「家族・親戚・知人」(16%)と続いている。しかし、12月以降は「専門機関・専門職」からの相談が増えている現状から、徐々に地域包括支援センターをはじめ関係機関に本事業が浸透してきていると思われる。

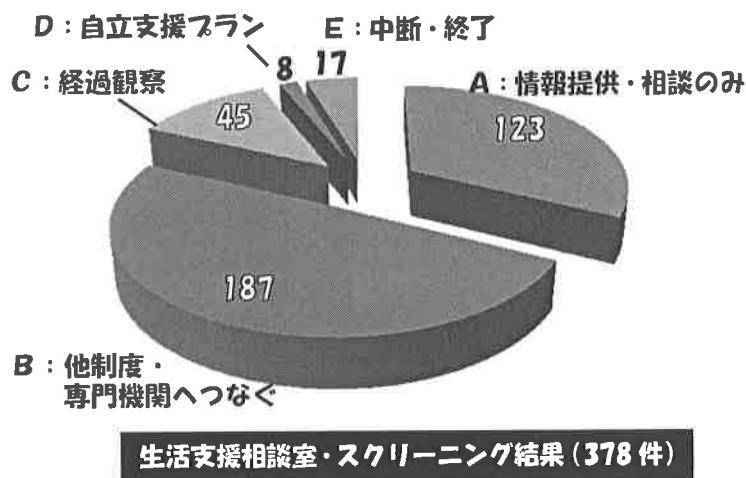


生活支援相談室・相談経路(年間378件)内

相談をスクリーニングした結果、5つに分類する（A：情報提供・相談対応のみ終了、B：他制度・専門機関へつなぐ、C：本人同意は取れていながら、経過観察、D：自立支援プランを策定、E：スクリーニング判断前に中断・終了）と、全体の半数（49%）は「B」であり、他制度・専門機関へつながっている。次に、「A」が多く（32%）、相談者が電話や来所での相談員による情報提供・相談対応のみで終了しているケースである。

3番目に多い「C」については（12%）、プラン策定までいかないものの、相談者に対して定期的な電話連絡等（状況把握）が必要なケースも多々ある。「D」の自立支援プラン作成は8件に留まっている。

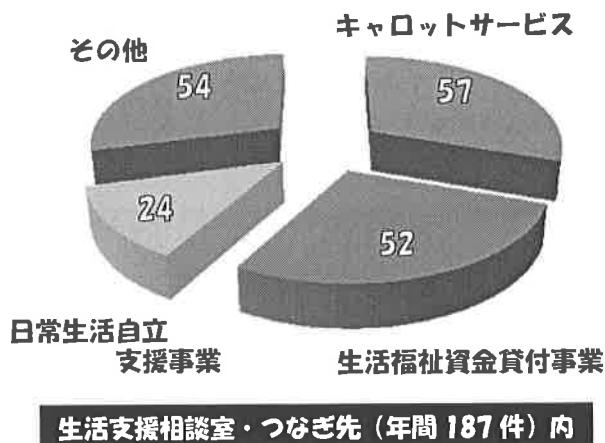
今後は、「D」はプランに沿って伴走するとともに、「C」についても、引き続き、経過を見守っていく。プラン策定数の年間8件だったという理由は、事例困難ケース（難病者の生活支援、若年性認知症者の生活支援、脳梗塞罹患者の就労支援、引きこもりの社会復帰支援等）の中から、プラン策定として本人から同意を得られたものが限られているためである。



スクリーニングにおいて、「B：他制度・専門機関へつなぐ」でのつなぎ先については、30%の「キャロットサービス」が最も多く、28%の「生活福祉資金貸付事業」、13%の「日常生活自立支援事業」と続いており、全体の70%以上は、本会事業につながっている。

また、つなぎ先の「その他」（29%）についても、様々な地域の社会資源（地域包括支援センター、無料低額医療、保護課、社会福祉法人地域公益活動協議会（食糧支援・経済支援・ゴミ屋敷等）、校区社協、居住支援協議会、障害者相談支援事業所等）へつながっている経緯から、今後も本会は生活支援コーディネーターとの連携を図りながら様々なインフォーマルサービスを開発する必

要がある。



② 住居確保給付金事業

住居確保給付金は、離職者であって就労能力・就労意欲のある人の中で、住宅を喪失しているか、喪失するおそれのある人に対して、家賃相当額を支給することにより、住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行うことを目的としている。

この事業を実施するに当たっては、市地域福祉推進室やハローワークと連携し、「生活保護受給者等就労自立促進事業」を活用した就労支援や、必要に応じて本会が窓口である生活福祉資金貸付事業を併用しながら、当事者の支援にあたった。

(相談件数)

相談件数								申請件数				支給決定件数			
3 件								2 件				1 件			
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2				

③ 学習支援事業

低所得世帯や不登校の中学生等を対象に、市内3か所において、学習支援を行い、進学等の支援や悩み事の相談を受けた。



学習支援の様子

(ア) 実施場所及び時間

実施場所	時間
手鎌地区公民館	毎週木曜日 18:00~20:00 (第5木曜日を除く)
三川地区公民館	毎週木曜日 18:00~20:00 (第5木曜日を除く)
地域の縁側ひらばる	毎週土曜日 10:00~15:00

※ 縁側ひらばるは、特定非営利活動法人コレクティブに委託

(イ) 参加者及びボランティア

実施場所	参加者(学生)数	ボランティア数
手鎌地区 公民館	14名 (中学生9名、高校生1名、小学生4名)	7名
三川地区 公民館	9名 (中学生4名、小学生5名)	3名
地域の縁側 ひらばる	6名 (中学生5名、小学生1名)	14名

(ウ) 相談内容

保護者	参加者(学生)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路について ・ 進学のための費用について ・ 不登校の子の支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活について ・ 進路について

(エ) ボランティア会議の実施

実施日	場所	参加者	内容
平成27年 12月11日	総合福祉センター 相談室	ボランティア2名 社協職員 3名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実績報告 ・ 評価（評価点・改善点）
平成28年 3月31日	総合福祉センター 相談室	ボランティア4名 市職員 4名 社協職員 2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後について意見交換

④ 就労準備支援事業

自立相談支援事業において、スクリーニング結果で3番目に多い「C」についてはプラン策定までいかないまでも、相談者に対して定期的に電話連絡等を行い、相談者の状況把握が必要なケースが45件あった。

この中で就労支援に係る事案が36件あり、今後、就労にどのようにつなげていくのかを、ケースごとに模索している。

本事業では、①生活習慣形成のための生活自立支援、②就労の前段として必要な社会的能力の習得のための社会自立支援、③一般就労のための基礎能力を身につける就労自立支援等、段階に応じた対応が必要となる。

ただし、就労支援に係る事案のうち、もうすでに相談者独自で就職を決めているケースもあるが、就労支援において特に時間を要するのが、ひきこもり支援である。

今年度のひきこもりの支援については、4人が本会にて、生活習慣訓練から始まり、ボランティア体験、就労体験を行い、本事業で2件の就労支援プランを作成した。その内、1件は市内事業所で試用期間に入っている。

今後のひきこもり支援対策、一般就労支援前での中間就労事業所等の開拓が急務である。

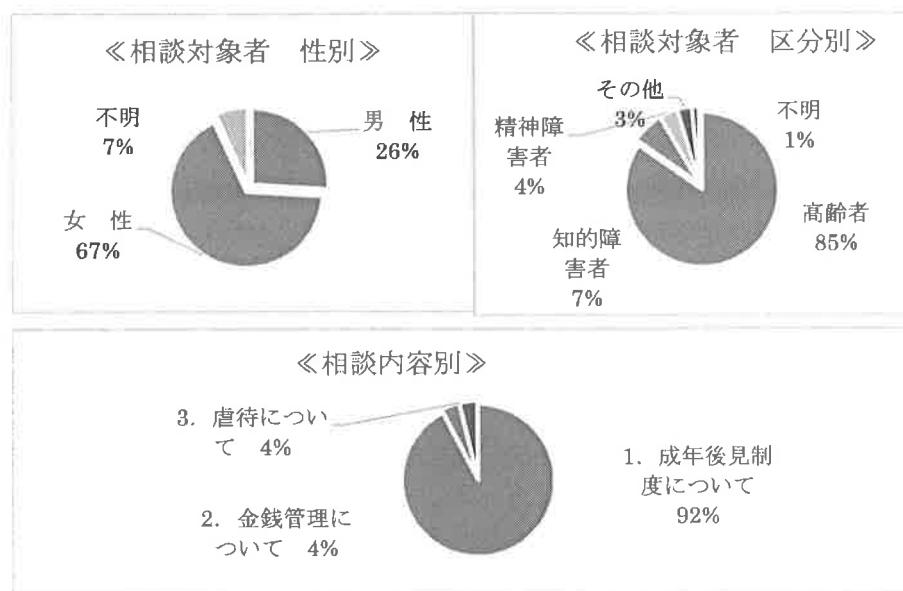
(2) 大牟田市成年後見センター事業の運営(市受託事業)

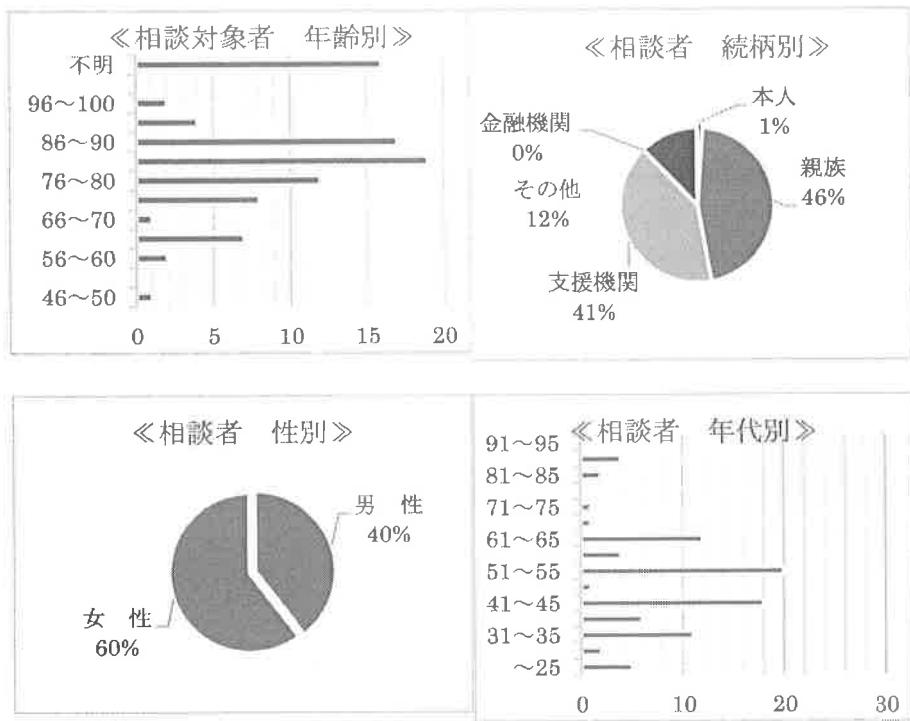
① 相談・支援

大牟田市成年後見センター(以下、後見センター)の初回相談者数は131件(実人数)となった。

相談対象者、相談者、相談内容別の傾向として次のとおりとなった。

また、初回相談数のうち、初回のみの終結件数56件、継続支援件数75件となった。継続支援の延べ回数は250回であった。





② 市民後見人の養成・登録

今年度、市民後見人の養成・登録の実施にあたって開催した講座等は、以下のとおり。

成年後見活用講座	
目的	より多くの人が成年後見制度を学び、活用できるようになることで、地域社会における権利擁護の推進を図る。
開催日	平成 27 年 6 月 30 日～平成 27 年 7 月 28 日 毎週火曜日（全 5 回）
会場	総合福祉センター 中会議室
参加者	受講生 13 名、修了生 11 名

市民後見人実務養成講座	
目的	地域社会における権利擁護の推進を図るために、市民後見人登録申請および活動を前提とした人材を養成する。
開催日	平成 27 年 10 月 6 日～平成 27 年 12 月 15 日 毎週火曜日（全 10 回）
会場	総合福祉センター 中会議室
参加者	受講生 12 名、修了生 12 名

市民後見人実務者講座	
目的	市民後見人登録者の資質の向上と次年度の登録更新における必須の更新研修として開催する。
開催日	平成 27 年 12 月 16 日
会場	総合福祉センター 大会議室
参加者	10 名

市民後見人の登録	
目的	本会で受任している被後見人等への支援者として活動する市民後見人登録者を選考・登録する。
2期生の登録	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/13(月) 市民後見人登録申請 締切[申請者：5名] ・ 4/24(金) 平成 27 年度 市民後見人選考会[参加者：5名] ・ 4/24(金) 第 1 回選考登録部会[選考会の結果について協議] ・ 4/30(木) 市へ暴力団排除措置に関する照会依頼 ・ 5/12(火) 市から暴力団排除措置に関する照会結果確認 ・ 6/8(月) 市民後見人登録申請者へ合否を通知[登録可：4名] ・ 7/15(水) 市民後見人登録手続き 締切[登録者：4名]
3期生の登録	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12/15(火) 市民後見人登録申請に関するオリエンテーション [説明者：12名] ・ 1/25(月) 市民後見人登録申請 締切[申請者：10名] ・ 1/29(金) 第 3 回選考登録部会 [選考会について協議] ・ 2/19(金) 平成 27 年度 市民後見人選考会[参加者：10名] ・ 2/19(金) 第 4 回選考登録部会[選考会の結果について協議] ・ 2/8(月) 市へ暴力団排除措置に関する照会依頼 ・ 3/4(金) 市から暴力団排除措置に関する照会結果確認 ・ 3/8(火) 市民後見人登録申請者へ合否を通知[登録可：9名] ・ 3/16(水) 市民後見人登録手続き 締切[登録者：9名]

③ 市民後見人活用による法人後見受任及び市民後見人活動の支援

年度末時点において、本会が後見人等として受任し、市民後見人が活動した件数は以下のとおりとなった。

法人後見受任件数	13 件(後見 9、保佐 3、補助 1)
市民後見人活動件数	8 件
市民後見人活動人数	5 名

④ 成年後見制度や権利擁護に関する啓発

(ア) 出前講座：16件

実施日	対象者・主催者	参加者数
平成27年 4月6日	・ 対象：地域包括支援センター・サブセンター職員 ・ 主催：大牟田市 長寿社会推進課	約60人
平成27年 5月14日	・ 対象：長寿社会推進課新任職員 ・ 主催：大牟田市 長寿社会推進課	約15人
平成27年 6月12日	・ 対象：レディースネットワーク会員等 ・ 主催：レディースネットワーク	約30人
平成27年 6月20日	・ 対象：地域住民 ・ 主催：手鎌校区社会福祉協議会	約20人
平成27年 7月15日	・ 対象：地域住民 ・ 主催：手鎌校区社会福祉協議会	約20人
平成27年 7月27日	・ 対象：事業所職員 ・ 主催：精神科訪問看護ステーション連絡会	約30人
平成27年 9月10日	・ 対象：校区民生委員児童委員協議会会長会 ・ 主催：校区民児協会長等	約25人
平成27年 9月14日	・ 対象：地域住民 ・ 主催：笹原町1丁目公民館「ひまわりの会」	約20人
平成27年 10月13日	・ 対象：地域住民 ・ 主催：手鎌校区社会福祉協議会	約30人
平成27年 10月27日	・ 対象：保護課ケースワーカー ・ 主催：大牟田市 保護課	約30人
平成27年 11月13日	・ 対象：あんしん介護相談員等 ・ 主催：大牟田市 長寿社会推進課	約10人
平成27年 11月28日	・ 対象：リーガルサポート筑後エリア会員 ・ 主催：(公社)成年後見センター・リーガルサポート福岡	約35人
平成27年 12月8日	・ 対象：くぶき、わたせ職員 ・ 主催：小規模多機能施設わたせ	約15人
平成28年 1月17日	・ 対象：認知症コーディネーター養成講座受講生 ・ 主催：大牟田市 長寿社会推進課	約50人
平成28年 2月22日	・ 対象：市町村職員 ・ 主催：宮崎県社会福祉協議会	約40人
平成28年 2月23日	・ 対象：市町村職員 ・ 主催：宮崎県社会福祉協議会	約80人

(イ) 視察の受入

実施日	受入団体等	受入人数
平成 27 年 10 月 22 日	函館市社会福祉協議会	職員 4 人
平成 27 年 10 月 26 日	鳥栖市手をつなぐ育成会	会員 20 人

(ウ) 成年後見啓発フォーラムの実施

実施日	内容等	人数
平成 28 年 2 月 28 日	・「輝ける人生 100 年時代～成年後見制度を通してあなたらしく生きる～」 ・会場：イオンモール大牟田 2 階 イオンホール	98 人

⑤ 成年後見制度や権利擁護の関係機関との連携

(ア) 運営管理委員会

後見センター事業の適正な運営を管理・監督を目的として全 3 回開催

(イ) 受任検討委員会

市民後見人の活用を前提に法人受任することの協議を目的として全 5 回開催

(ウ) 選考登録部会

後見センターが養成した市民後見人登録候補者を適正に選考・登録を目的として全 4 回開催

(エ) 執務管理部会

後見センターに登録した市民後見人の活動が円滑に実施されるよう監督・指導・助言を目的として全 12 回開催

(オ) 成年後見支援に関するあり方検討会

成年後見制度の円滑な運用に必要な体制整備についての協議を目的として全 3 回開催



イメージキャラクター名決定の表彰式の様子



大牟田市成年後見センター
イメージキャラクター りんぐちゃん

(3) 日常生活自立支援事業の推進

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分なため、日常生活に困っている人たちに対して支援計画を作成し、生活支援員を派遣することで、自立した生活ができるよう福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等を行った。

これまで久留米市社会福祉協議会の受付窓口であったが、平成27年6月1日より、本会が基幹的社会福祉協議会となった。また、基幹的社会福祉協議会への移管についての事務説明及び生活支援員同士の意見交換会を開催した。

① 生活支援員事務説明会

実施日	内容等	人数
平成27年 6月29日	・ 内容：基幹的社会福祉協議会へ移管についての説明及び意見交換 ・ 会場：総合福祉センター中会議室	13人

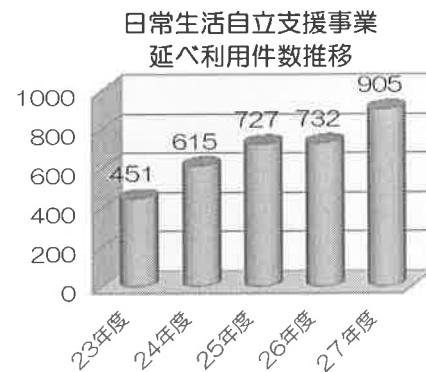
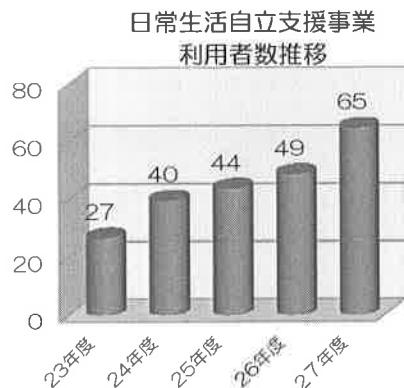
② 日常生活自立支援事業

(ア) 実施状況

利用者数	相談件数			延べ利用件数			生活支援員								
	65名 (移管時の利用 者数51名)	63件	905件	37名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
相談 件数	7	3	3	4	9	4	4	4	9	4	4	3	7	8	8
利用 件数	63	68	69	69	71	70	74	76	88	82	82	93			

(平成28年3月31日現在)

(イ) 利用者及び利用件数の推移



(4) 大牟田市居住支援協議会の運営(国交省:重層的住宅セーフティネット構築支援事業補助)

地域資源としての空き家の活用と住宅確保要配慮者の円滑な入居促進及び安心して暮らせる仕組みづくりを推進するため、事務局として不動産・福祉・医療・行政等の各団体と連携して取り組んだ。

① 空き家利活用セミナーin おおむたの開催

「眠った資源を活かしてより良いマチへ」をテーマに、大牟田市において数多くの空き家が眠っている現状を伝え、地方都市における住宅政策や税制、相続の問題を知らせることで、空き家を活用する事が所有者にもメリットがあるだけではなく、大牟田のまちづくりにつながることを知るきっかけにしてもらうことを目的に開催した。

実施日	会場	人数
平成27年11月28日	イオンモール大牟田 2F イオンホール	約90人

② 相談対応マニュアルの作成及び相談支援体制の構築

住宅確保要配慮者の生活実態に合わせた相談対応や入居前後の支援ができるように、住宅確保要配慮者からの相談や入居を支援するサポート部会、所有者からの相談や空き家提供の対応を行う住宅管理部会を設置し、相談実施体制を検討した。

③ 空き家活用無料相談会の開催（年2回）

実施日	会場	相談件数
平成27年8月14日	労働福祉社会館 研修室	27件
平成28年1月16日	総合福祉センター 大会議室	41件

④ 空き家の管理実態と活用意向に関する調査の実施

空き家が流通しない原因や所有者の課題を把握するため、有明工業高等専門学校 建築学科と連携し、空き家所有者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査期間】平成27年9月～平成28年2月

⑤ 入居支援の実施

所有者より物件提供があった空き家を使い、住宅確保要配慮者の入居マッチングを実施した。

【契約件数】8件（母子世帯3件、被災(火災)世帯2件、入居支援団体1件(シェルター利用)、高齢者世帯1件、生活困窮者1件）



(5) 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

低所得者、高齢者及び障がい者等の世帯に対して、生業、住宅、災害、福祉、就学、緊急小口、離職者等の各種資金の貸付相談の受付を行い、ケースによっては民生委員の協力を得ながら、借受世帯の自立に向けた支援を行った。

今年度からは、貸付希望者は全て自立相談支援事業の面談を受ける事が条件となった。

平成27年度実績は、相談件数200件、貸付決定件数39件、延滞利子支払免除申請1件。

(相談・貸付決定件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談受付	34	10	19	18	16	17	6	10	18	13	23	16	200
貸付決定	4	3	1	2	3	2	0	3	5	5	2	9	39

(生活福祉資金貸付状況)

(単位:千円)

	25年度		26年度		27年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
生活支援費	1	210	0	0	1	54
住宅入居費	0	0	0	0	0	0
一時生活再建費	0	0	0	0	1	284
福 祉 費	4	367	3	732	11	4,182
緊 急 小 口	8	737	5	450	16	1,503
教育支援費	6	3,364	3	2,520	6	9,790
就学支度費	8	4,359	5	3,373	4	855
そ の 他	0	0	0	0	0	0
合 計	27	9,037	16	7,075	39	16,668

(6) 大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会の設立及び事業運営

これまでも、社会福祉法人は、その社会的使命のもと、個々の法人が「公益性」のある地域貢献活動を地域において実施してきた。しかしながら、単独法人のみでは、広域的なサービス、制度の狭間や制度利用までの緊急対応を要する生活課題等には十分対応できていない。加えて、社会福祉法人が協働体として、活動に必要な「資金」「人材」「資材」「情報」等を共有することによって、市内全域を対象に、これらインフォーマルな地域活動をしていくことが求められていた。

こうした中、今後、より一層社会福祉法人に求められる「公益性」「透明性」「公平性」を踏まえた社会福祉法人のあるべき姿を、大牟田市において具現化するために、市内の社会福祉法人に呼びかけて、16 法人の参画を得て、平成 27 年 5 月「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会（以下「社福公益協」という）」の設立に至った。

「児童」「障がい」「高齢」「生活困窮」という縦割りに捉われず、社会福祉法人の力を合わせて、また社会福祉法人のみならず、地域組織をはじめ、市内の事業者、関係機関・団体、行政等とともに、地域住民の生活に埋もれる多様なニーズや、制度の狭間にある様々な福祉課題を抽出・解決し、それぞれの強みを活かしながら、積極的大牟田市のまちづくりに貢献していくと考えている。



【大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会・参加法人】 ※法人名と主な施設名

① (社福) 東翔会 サンフレンズ	⑨ (社福) 小鳩福祉会 小鳩保育園
② (社福) 福因寺福祉会 延寿苑	⑩ (社福) 聖光園 上官保育園
③ (社福) それいゆ こもれび	⑪ (社福) 久福木福祉会 久福木保育園
④ (社福) 恩賜財団済生会 大牟田ライフケア院	⑫ (社福) キリスト者奉仕会 恵愛園
⑤ (社福) 博愛福祉会 吉野園	⑬ (社福) あけぼの会 あけぼの学園
⑥ (社福) 大牟田市福祉事業協会 昌普久苑	⑭ (社福) 日本厚生学園 りんどう学園
⑦ (社福) グッドタイムズ サンホリデー	⑮ (社福) 地域福祉を支える会 エンゼル
⑧ (社福) 甘木山学園 甘木山学園	⑯ (社福) 大牟田市社会福祉協議会

① 社福公益協ワークショップ

昨今の社会経済情勢の変化や、地域の希薄化、核家族の更なる進行による生活力の低下等により、社会的孤立や孤独死、ひきこもり、不登校、虐待、自殺、生活困窮など多様な福祉課題・生活課題が広がっている。

こうした課題に対して、既存の制度では対応できない“制度の狭間”となる生活困窮の現場に居合わせることがたびたびある。



そこで、地域に潜む多様な福祉ニーズや“制度の狭間”にある様々な困難ケースを抽出し、今後活動する『生活困窮レスキュー』のメニューを検討するためにワークショップを開催した。

【第1回ワークショップ】	【第2回ワークショップ】
(日 時) 平成 27 年 8 月 5 日	(日 時) 平成 27 年 9 月 4 日
(場 所) 総合福祉センター2F 大会議室	(場 所) 総合福祉センター2F 大会議室
(参加者) 27 人	(参加者) 25 人
(テーマ) 「仕事の中で制度では対応できず 困っている問題とは?」	(テーマ) 「各法人が持つ資源とは?」
(内 容) 社福公益協の目的について 制度で解決できなかった事例の 洗い出し作業	(内 容) 「各法人の社会資源を知ろう!」 法人の特色・実施している事業紹 介、キーワードは、「ひきこもり・ 就労支援・移動支援・人材育成」

② 「生活困窮者レスキュー事業」実施要綱の作成

社会福祉法人が地域貢献として相談支援活動を活発化して、心理的不安の軽減を図ることや公的な制度・サービス等の橋渡しをはじめ、制度の狭間の諸問題や生活困窮等の新たな福祉課題に対し、法人が柔軟に対応し、地域のセーフティネットの役割を担うことを目的に「生活困窮者レスキュー事業」を実施。

「生活困窮者レスキュー事業」の支援活動については、生活困窮者が公的な制度やサービスなどを受けられるようになるまでの間、必要に応じて生活必需品の給付、一時的な住まいや食事の提供等の経済的な援助を行う。事業の財源については、社福公益協の会員の会費等で充当する。加えて制度の狭間となるような事案についても支援の対象とする。

会員は、生活困窮者やその家族、生活困窮者を支援する関係機関・団体等から相談を受けたときは、できる限り詳細に生活困窮者の主訴や世帯の生活状況を聞き取るなどの初期相談を行う。会員は生活困窮者レスキュー事業の対象と判断した場合は、速やかに本会（社会福祉協議会）の「生活支援相談室」につなぐこととされた。

【期待される事業の効果】

- ①緊急時における生活困窮者に対するスピードを持った対応
- ②社会福祉法人の地域社会からの信頼の醸成
- ③社会福祉法人の専門性の地域への還元
- ④災害時の公益的な役割（福祉避難所）
- ⑤公的制度の狭間を埋めるきめ細やかなセーフティネットの構築

【生活困窮者レスキュー事業として考えられる具体例】

- ①ゴミ屋敷の撤去に要する人的対応及び撤去費用の支援
- ②様々な制度決定までのタイムラグの解消（生活保護決定までの食糧・配食支援など）

- ③災害避難の福祉避難所としての役割
- ④緊急避難時の食事・食材・物品等の提供
- ⑤DV、虐待等の緊急避難のための衣食住の提供
- ⑥家計再建のための最低限のつなぎ資金貸付（滞納金の精算、食材費、就労支度費など）
- ⑦若者のひきこもり等、社会復帰のための法人施設でのボランティア活動及び就労支援
- ⑧災害時における人的支援及び車両等の提供

③ 生活困窮者レスキュー事業の主な活動事例

(ア) ゴミ屋敷清掃活動

地域包括支援センターからの依頼により、清掃活動を実施。社福公益活動協議会、地域包括支援センター、ボランティア、医療法人、市役所、福岡県社協等々、約 60 名の参加。



ゴミ屋敷清掃活動の様子



ゴミ屋敷清掃活動の様子

(イ) 配食サービス及び食糧支援

生活困窮者で、離職や災害、病気などにより所持金がほとんどない場合や、生保決定までの間や次の年金支給日までの食糧のつなぎとして、配食サービスの提供やレトルト食品、インスタント食品等の食糧支援を実施している。なお、配食サービスや食糧支援については、健康面や生命の危険の及ぶことが見込まれる場合の緊急措置としている。



缶詰、インスタント食品

(ウ) 生活困窮者に対する経済的援助（貸付モデル事業）

家計再建のために一時的に経済的な援助が必要に思われる場合は、生活困窮者と同行して電気・ガス、不動産会社の滞納分を支払う。その資金は、社福公益協の貸付モデル事業として実施した。ただし、家計相談を受け、再建計画を立て、償還見込みのある生活困窮者を対象とした。

④ 役職員研修

ややもすると生活困窮者は経済的困窮と見られがちであるが、経済的困窮以外にも社会的孤立もその範疇だと考えている。社会的孤立には、金銭管理ができない高齢者、障がい者やひきこもり、不登校など、SOSを発信できない人が多数存在している。

そのような中、ひきこもり対策も、社福公益協の生活困窮者レスキュー活動の一つと考えていることから、ひきこもりの若い世代が社会復帰のために法人施設でボランティア活動や就労訓練できるようにしなければならないと考えている。並行して、ひきこもりの人を伴走するジョブコーチ的な存在が不可欠となってくる。社福公益協では、そのジョブコーチ的な伴走者を会員の中から育成していくために、役職員研修を開催した。

【役職員研修】

(日 時) 平成 28 年 3 月 23 日 (場 所) 総合福祉センター 2F 大会議室

(参加者) 31 名

(テーマ) 「いまさら…聞けない? 制度を知り、制度の狭間を知ろう」

講師: 社会福祉法人 キリスト者奉仕会

障害者就労・自立支援たんぽぽ 施設長 谷山 恵一氏

(7) 各種相談事業

① 行政書士による法務相談

行政書士による法務相談を実施し、離婚、金銭貸借、財産相続、事故等の相談に親身になって対応し、必要に応じて無料弁護士相談や関係機関へ橋渡しをした。

相談件数						実施日					
52 件						毎月第 3 水曜日					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	7	3	6	6	2	3	4	3	3	5	4

② 福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合「第三者委員会」を設置し、その解決を図ることとしているが、平成 27 年度は相談依頼がなかった。

6. ボランティアセンターの運営

(1) ボランティアセンターの充実強化

① ボランティア情報提供と啓発

地域において、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたい人を結ぶために、登録団体名簿・ボランティアニーズ情報紙を作成し、ボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、コーディネート機能の充実に努めた。

■ボランティアセンターへの登録状況

	25年度	前年比(%)	26年度	前年比(%)	27年度	前年比(%)
グループ(団体)	61	119.6	54	88.5	46	85.2
個人(人)	24	82.8	13	54.2	17	130.8

■サロン連絡会でボランティア体験の実施

サロン連絡会で、登録ボランティアの中から2団体によるボランティア体験を実施。地縁組織を中心に活動しているサロンボランティアと、テーマをもって活動しているボランティアを結びつける取り組みとなり、サロンから登録ボランティアへの依頼も増えることでボランティア活動の充実につながっている。

② ボランティア活動保険加入について

ボランティア活動等を支援するため、ボランティア活動保険の加入受付を行った。

(ボランティア活動保険加入状況)

	25年度	前年比(%)	26年度	前年比(%)	27年度	前年比(%)
保険加入者数	1,018	79.0	1,063	104.4	1,073	100.9

③ 登録ボランティアスキルアップ研修

「おおむたキャロットサービス協力会員養成講座」の1回目をスキルアップ研修として実施。ボランティアの意義を再確認するいい機会となったが、参加団体は8団体と少なかった。今後、多くのボランティアが参加できるよう、日時や内容を検討しながらボランティアの資質向上に向けて支援していく。

【日 時】 平成27年10月27日(火)

【会 場】 総合福祉センター

【内 容】 人のつながりをつくるボランティア

<講師>筑紫女学園大学 社会福祉コース 教授 山崎 安則氏

※「おおむたキャロットサービス協力会員養成講座」「産前・産後ケアサポートママ養成講座」の1回
目と兼ねる。

④ 「学ぶ・ふれあう みんなで楽しむタブレット講座」の実施

現在、タブレット DE 地域レビュー講座～人生に
彩りを～」(24 年度実施) から立ち上がったボラ
ンティアグループ「タブレッツ」は、依頼を受け
た地域のサロン等に出向き活動を行っているが、
今後サロンの重要性が増していく中で、タブレッ
トを用いたボランティア活動の充実が一層求めら
れる。タブレットへの関心は高く、みんなで楽し
めるタブレットの活用を学んだ。



【日 時】 平成 28 年 2 月 23 日 (火)、3 月 1 日 (火)、3 月 8 日 (火)
午前 10 時～12 時 (全 3 回)

【受講者】 23 人

⑤ “災害”に対する取り組み



大牟田市ボランティア連絡協議会、大牟田市障害
者協議会、大牟田市校区社会福祉協議会会長連絡
協議会、大牟田市と実行委員会を組織し“災害”
への取り組みを行った。さらに、大牟田市や一般
社団法人大牟田青年会議所と協定を結び、災害時
の協力体制ができた。

■災害ボランティアセンター設置・運営訓練

災害発生時のボランティア活動を効率よく効果的に支援するために、大牟田市総
合防災訓練の一環として、職員を中心に「災害ボランティアセンター設置・運営訓
練」を実施した。

【日 時】 平成 27 年 8 月 30 日 (日)

【会 場】 明治会館・大牟田市立明治小学校

【参加者】 68 人

【内 容】 明治会館でサテライト型の災害ボランティアセンターを設置。

ボランティア内容として、市より依頼された“避難住民への水配布
のサポート”にボランティアを送り出すまでの流れを確認した。

<当日役割分担>

役割分担	活動内容
災害ボランティアセンター長	総括
災害ボランティア副センター長	センター長補佐（行政との連絡調整・渉外・総括）
総務・救護班	ボランティア保険加入、受付票の整理・保管、センター内の衛生管理、ケガ等への対応
ボランティア受付班	ボランティア希望者の受付、登録等
オリエンテーション班	活動上の留意事項の説明
マッチング・グルーピング班	支援活動のマッチング、グループリーダー決定、送り出し、活動報告受付
ニーズ班	依頼内容をニーズ票におこし、マッチング・グルーピング班へつなぐ



ボランティア受付班



オリエンテーション班



マッチング・グルーピング班

■第3回防災運動会の実施

【日 時】 平成 28 年 2 月 21 日 (日)

【会 場】 大牟田市立羽山台小学校

【参加者】 約 170 人

【内 容】 羽山台校区住民を中心に、子どもから高齢者、障がい者が一緒になって防災に関連する競技をおこなった。また、その中で、災害に関する展示体験コーナーや講話も実施した。

- ①非常食準備競争 ②搬送リレー ③大声競争 ④バケツリレー



搬送リレー



大声競争



バケツリレー



展示コーナー



ミニ講話



表彰式

7. 社協情報・広報の充実

(1) 社協情報・広報の充実

① 広報紙 社協だより「きらり」の発行

年4回(4月・7月・10月・1月)、全世帯を対象に発行している社協福祉情報「きらり」をフルカラーにリニューアルし、発行した。

② 社協事務局通信「きらり」の発行

毎月1回、社協事務局通信「きらり」を発行し、タイムリーな情報を提供した。

③ 社協ホームページ (<http://www.omshakyo-kizuna.com/>)

くぬぎ保育所ホームページ (<http://www.omshakyo-kizuna.com/kunugi/>)
社協及びくぬぎ保育所のホームページにて、社協の取り組みや事業内容の紹介等、随時情報を提供した。

また、居住支援協議会、共同募金会、ホスピタルローソン大牟田市立病院店の活動について、フェイスブックで情報を発信した。



8. 大牟田市地域福祉大会～地域支えあい絆セミナー～

(1) 第7回大牟田市地域福祉大会～地域支えあい絆セミナー～

市民一人ひとりが自ら住んでいる地域に積極的に関わり、地域住民の「支えあい」の“絆”」を創造することを目的に開催した。

また、地域福祉の向上に貢献され、他の模範となる個人又は団体に対する表彰状の授与を行うことでその功績を称えた。

併せて、「赤い羽根共同募金」及び「歳末たすけあい募金」に、多額の寄付をされた方々へ感謝状を贈呈した。

【日 時】平成28年2月6日（土）
【場 所】大牟田文化会館 小ホール
【主 催】大牟田市地域福祉大会実行委員会
【参加者】約400名

【内 容】

[第1部]大牟田市社会福祉協議会 功労者表彰
(表彰の部)

- 市社協役員（1名）
- 校区社協実践活動者・団体（31名）
- 優良校区社協（中友校区）
- ボランティア活動団体（1団体）

(感謝の部)

- 校区社協実践活動者・団体（36名）
- ボランティア活動団体（1団体）
- 善意銀行高額寄付者・団体（2団体・3名）

(共同募金高額寄付者・団体表彰)

- 共同募金高額寄付者・団体（15団体・1名）

[第2部]基調講演「地域の絆が孤立を包む

～NHK ドラマ サイレント・プアの生まれた町の実践から～」

(講師) 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

事務局参事 勝部 麗子 氏



第1部 功労者表彰式



第2部 基調講演

9. 共同募金運動等の取り組み

（1）共同募金運動の取り組み

地域福祉推進のための貴重な財源である「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい募金」について、福岡県共同募金会大牟田市支会と連携して取り組んだ。

近年の募金額等の減少により、今後もさらなる配分金の透明化や目的に合った助成が求められると考える。そのような中で、平成27年度は「募金百貨店おおむた」の地域イベントでの寄付つき商品の出張販売を実施した校区は赤い羽根共同募金の募金額が増加した。

① 赤い羽根共同募金および歳末たすけあい募金の実績

	26年度(円)	前年比(%)	27年度(円)	前年比(%)
赤い羽根共同募金	13,919,659	95.2	13,796,122	99.1
歳末たすけあい募金	2,973,426	94.6	2,805,614	94.4

② 寄付つき商品の販売

平成25年度から取り組み始めた寄付つき商品のプロジェクト「募金百貨店おおむた」に、平成27年度は38の企業・団体の参加があった。

具体的には、参加企業・団体の一部が、地域でのイベント等で寄付つき商品の出張販売をしたり、出前講座を開催する新しい試みを行い、その売上的一部分が赤い羽根共同募金へ寄付された。



くらなが祭りにて出張販売



ふれあいサロンにて出張講座

③ 広報活動

【街頭キャンペーン】

赤い羽根共同募金運動開始時(10/1)、歳末たすけあい募金開始時(12/1)に、大牟田駅、イオンモール大牟田、ゆめタウン大牟田で実施した。

④ 募金活動の推進

【法人募金】

校区での募金活動のほか、赤い羽根共同募金は10月上旬、歳末たすけあい募金は12月以降、理事、事務局職員が市内の事業所などを訪問し、募金活動を行った。

【街頭募金】

街頭募金は共同募金の象徴的運動であり、周知啓発の意味でも実施する意義は大きい。

平成27年度も、実際に募金を受け取っている団体に街頭募金への協力依頼し、助成団体が共同募金運動に積極的に参加できるようにするとともに、募金する人が、「どのような団体が受け取っているのか」が直接わかる「使いみちのわかりやすい募金」を目指した。その結果、運動期間中さまざまな団体が、市内各所で街頭募金を実施し、募金実績の向上と、周知啓発を行った。



大牟田手話の会「ありあけ」

⑤ 配分金使途の透明化

各団体からの助成金申請を配分委員会で審査し配分すること、全世帯配布の社協だより「きらり」に集まった募金の使いみちを掲載すること、各報道機関へ情報提供を行うことなどにより、配分金使途の透明化を図った。平成27年度の共同募金配分委員会では、平成28年度事業として総額10,047,700円の助成先が決定した。

【福祉教育推進校】

No.	学校名・団体名	事業名	助成額
1	倉永小学校	地域との連携・交流を通した福祉教育	103,000
2	玉川小学校	体験からの学び 自然・ひと・もの・こと を大切にする教育の推進	50,000
3	手鎌小学校	持続発展教育(ESD)推進事業 地域伝統文化継承に伴う地域ボランティアの活性化	36,000
4	中友小学校	ESD推進事業(福祉教育・伝統文化)	75,000
5	羽山台小学校	高齢者および障害のある人との交流を通した福祉の心を育む教育	45,000
6	駿馬南小学校	駿馬南小学校福祉教育推進事業 地域との連携による福祉の心を育む活動	42,500
7	平原小学校	児童への福祉教育	35,000
8	吉野小学校	吉野小学校福祉教育事業	33,000
9	歴木中学校	安心して長生きできる社会を目指して	61,000
10	橘中学校	総合的な学習の時間と校内環境美化活動	37,500
11	誠修高等学校	ボランティアエステ(ハンドセラピー)	30,000
12	明光学園中・高等学校	地域の方々と女子中高生とのスマイル福祉交流活動	104,291
計			652,291

【福祉団体等】

1	大牟田手話の会「ありあけ」	世界文化遺産を聴こえない人に伝えるための研修会	45,000
2	大牟田市身体障害者福祉協会連合会	社会参加促進事業	250,000
3	大牟田市母子寡婦福祉会	母と子のふれあい事業	100,000
4	大牟田ボランティア連絡協議会	連絡協議会活動推進事業	70,000
5	大牟田要約筆記の会 のぞみ	難聴者の交流・学習の場づくりと啓発活動	50,000
6	大牟田市老人クラブ連合会	教養事業(会員の親睦と介護予防推進活動)	155,000
7	大牟田朗読の会	朗読・情報発信などに関する研修会	50,000
8	NPO法人 大牟田市障害者協議会	第38回ふれあいバラリンピック＆サンアビまつり	100,000
9	NPO法人 ともしひ会	精神障害者等の社会参加促進事業	106,560
10	障害福祉サービス事業所 ふれんず	障がい者施設見学研修	197,500
計			1,124,060
※助成申請額 合計			1,776,351
大牟田市民生委員・児童委員協議会		共同募金協力団体としての活動費	465,000
大牟田市社会福祉協議会		地域福祉事業全般	1,252,382
① 助成申請による配分枠 (Aの約35%) 合計			3,493,733
② 校区社会福祉協議会活動費枠 (Aの約65%) 合計			6,553,967
① + ② 大牟田市全体の枠 合計 (A)			10,047,700

(2) 日本赤十字社福岡県支部大牟田市地区業務(市受託事業)

① 日赤募金(社資)実績の推移

(単位:円)

	26年度	前年比(%)	27年度	前年比(%)
日赤募金(一般社資)	8,007,548	95.8	7,750,046	96.8
日赤募金(法人社資)	240,000	98.0	230,000	95.8
計	8,247,548	95.9	7,980,046	96.8

② 平成27年度大牟田市の献血実績について

(単位:人)

区分	受付者	献血者	不適
地域(校区22回 LC3回 JC2回)	2,051	1,809	242
職域別(29回)	1,400	1,269	131
学域別(5回)	408	355	53
街頭(イオンモール大牟田 16回)	1,456	1,269	187
合計	5,315	4,702	613

③ 献血啓発セミナーの開催

大牟田市では、20校区の献血推進会やライオンズクラブ、青年会議所、事業所等の協力を得て毎年献血会を行っているが、献血者数は減少傾向にあり、特に校区での献血者の減少は顕著である。今年度も若い世代に献血への理解を深めてもらい将来の献血協力者となってもらうために赤十字血液センター職員を講師に献血啓発セミナーを開催した。

月日	対象	人数	講師	会場
平成27年 8月5日	中友学童保育所児童・指導員	32人	赤十字血液センター職員3名	中友学童保育所
平成27年 8月20日	高取学童保育所児童・指導員	29人	赤十字血液センター職員3名	高取学童保育所

④ 火災等の被災者への対応

市内の住居の火災被災者に対して調査のうえに日本赤十字社救援物資(災害見舞い品)を配布した。

	世帯数	世帯人数	布団	毛布	医薬品セット	緊急セット	タオルセット
全焼	7	27	19	23	8	7	15
半焼(水損により全焼扱)	2	5	3	0	1	1	1
合計	9	32	22	23	9	8	16

10. 組織体制の強化及び財源確保に向けた取組み

(1) 社協職員の人材育成

① 全職員研修

実施月	テーマ・講師	参加人数
4月	事業計画・予算 ・ 講師：大牟田市社会福祉協議会 職員	62人
6月	安全運転講習 ・ 講師：大牟田警察署 交通課	55人
8月	災害ボランティアセンター設置訓練	35人
10月	合理的配慮について ・ 講師：大牟田市障害者協議会 事務局長 大場和正氏	60人
12月	メンタルヘルスについて ・ 講師：不知火病院 看護部長 西慶子氏	39人
2月	普通救命講習 ・ 講師：大牟田消防署明治出張所	43人

(2) 福祉車両の寄贈

平成28年2月、日本財団様より福祉車両（ヘルパー車）の寄贈を受けた。



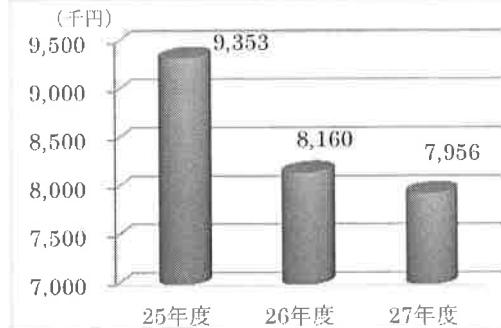
(3) 大牟田善意銀行の啓発強化

① 大牟田善意銀行預託状況

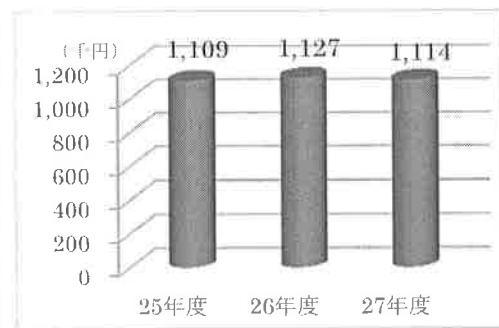
（寄付金等預託状況）

	25年度	26年度	27年度
一般寄付（件数）	373件	412件	326件
一般寄付（金額）	9,352,547円	8,159,748円	7,956,213円
物品寄贈件数	19件	18件	19件

一般寄付金の3カ年の推移



賛助会員会費の3カ年の推移



(4) 賛助会員制度の拡大

(賛助会員数等の推移)

	25年度	26年度	27年度
会員数(個人・団体)	405人	420人	430人
金額(円)	1,109,000	1,127,100	1,114,100

(5) 総合福祉センターの運営

① 総合福祉センター利用状況

	27年度	前年度比	
会場使用料収入	1,446,094円	63.2%	842,427円減
ヘルストロン利用収入	716,200円	64.9%	386,800円減
賃貸料収入	7,419,177円	120.8%	1,274,977円増
手数料収入	265,457円	91.8%	23,678円減
利用収入計	9,846,928円	100.2%	22,072円増

② 総合消防訓練

平成28年2月25日、ボランティア連絡協議会と合同で、総合消防訓練を実施した。今回は2階給湯室から出火したという想定で、社協職員はそれぞれの役割分担（初期消火班・避難誘導班・非常持出班・救助班）をし、センター利用者を火元から遠い階段を使って避難誘導し、駐車場へ避難させた。

2階にもガス給湯器があることから、今回は2階からの出火想定の訓練を行った。2階からの火災発見の一報が遅くなり、誘導に戸惑い、時間がかかり、次回の訓練への課題となった。

避難訓練後、けむり体験テントや水消火器の訓練もあり、総勢約50名の参加のもと有意義な消防訓練を行うことができた。

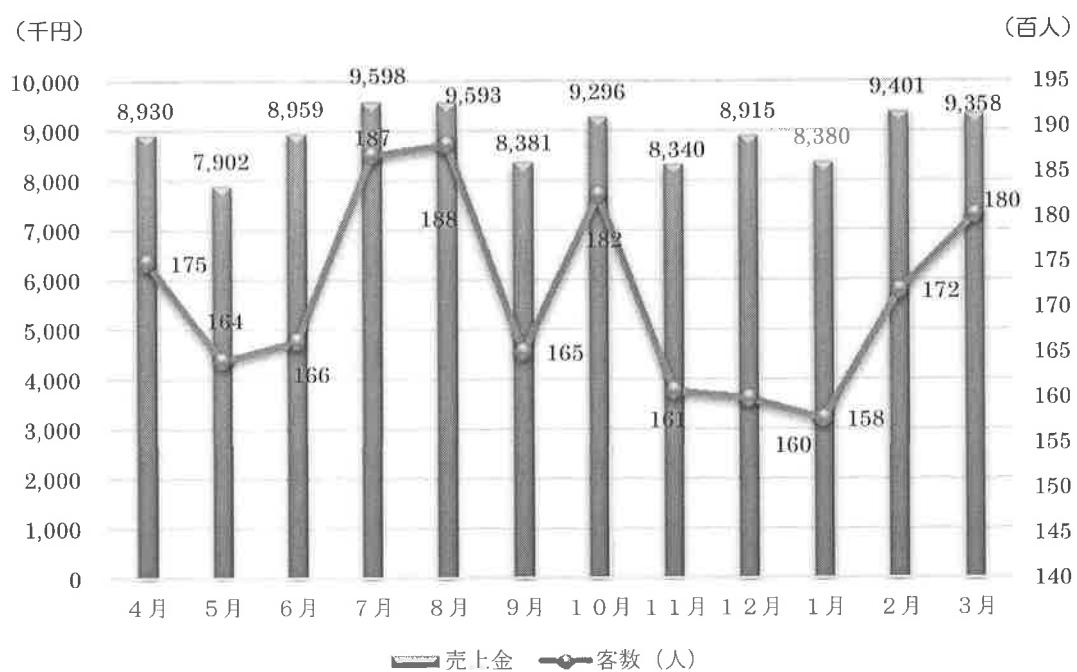
(6)市立病院ホスピタルローソンの運営

大牟田市立病院2階にて運営する市立病院ホスピタルローソンが、開設より3年目を迎えた。より利用しやすい店づくりを目指し、店内のレイアウトを変更し、お弁当やおにぎりなどの定番商品の他、入院生活に必要な日用品、挽きたて淹れ立てのコーヒーを提供するマチカフェなど豊富な品揃えで、固定客の獲得に努めた。その他、恵方巻きやクリスマスケーキ等の季節商品などの店舗外営業にも力をいれた。

ホスピタルローソン店内



ホスピタルローソン売上金と客数の推移(店舗営業収入・店舗外営業収入・手数料収入)



(営業実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ローソン 営業収入(円)	8,393,979	7,548,494	8,471,781	9,301,399	9,064,797	7,961,937	
(※1) 店舗外 営業収入(円)	306,930	167,200	295,871	88,288	310,385	215,238	
(※2) 手数料 収入(円)	228,623	186,537	191,222	208,045	217,490	204,047	
売上金 合計(円)	8,929,532	7,902,231	8,958,874	9,597,732	9,592,672	8,381,222	
客数(人)	17,490	16,403	16,622	18,679	18,797	16,502	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ローソン 営業収入(円)	8,842,383	7,815,081	8,295,163	7,902,593	8,822,274	8,842,421	101,262,302
(※1) 店舗外 営業収入(円)	242,118	308,656	393,082	245,156	360,460	272,208	3,205,592
(※2) 手数料 収入(円)	211,932	216,736	227,195	231,852	218,062	243,810	2,585,551
売上金 合計(円)	9,296,433	8,340,473	8,915,440	8,379,601	9,400,796	9,358,439	107,053,445
客数(人)	18,238	16,075	15,989	15,764	17,184	18,017	205,760

※1 店舗外営業収入…ゴミ袋、切手等

※2 手数料収入…自動販売機販売手数料等

(7) 福祉バス等貸出事業

福祉団体等の福祉増進のため、各種大会や研修会等の参加に際して福祉バスを行した。また、福祉行事のための荷物等を運搬する軽トラックの貸出も実施した。

	25年度		26年度		27年度	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
福祉バス利用状況	77	2,808	84	2,835	86	2,517
軽トラック利用状況	3		6		4	

11. 観察の受入

受入日	内容
平成 27 年 5月 20 日	熊本市西部地区民生委員・児童委員協議会 ・ 忙れあいサロン活動について
平成 27 年 5月 27 日	福岡県行橋市サロン推進協議会 ・ 忙れあいサロン活動について ・ キャロットサービスについて ・ 居住支援協議会について
平成 27 年 5月 29 日	熊本市西部地区自治会 ・ 忙れあいサロン活動について
平成 27 年 6月 30 日	佐賀県唐津市久里地区社会福祉協議会 ・ 高齢者と若い世代の人たちの交流やまちづくり事業
平成 27 年 7月 22 日	福岡県春日市社会福祉協議会 ・ 住民参加型在宅福祉サービス（キャロットサービス）について
平成 27 年 7月 23 日	鳥取県倉吉市議会 ・ 居住支援協議会について
平成 27 年 7月 30 日	広島県海田町議会 ・ 居住支援協議会について
平成 27 年 9月 18 日	福岡県筑後市社会福祉協議会 ・ 学童保育所の取組みについて
平成 27 年 9月 30 日	大分県由布市民生委員・児童委員協議会 ・ 生活困窮者自立支援事業の取組みについて
平成 27 年 10月 6 日	熊本市植木校区社会福祉協議会 ・ 小地域ネットワーク活動について
平成 27 年 10月 22 日	函館市社会福祉協議会 ・ 人事考課及び目指すべき社協ビジョンについて
平成 27 年 11月 4 日	福岡県八女市社会福祉協議会 ・ 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定について
平成 27 年 11月 5 日	北九州市八幡西区楠橋校区社会福祉協議会 ・ 小地域ネットワーク活動について
平成 27 年 11月 9 日	鹿児島県志布志市社会福祉協議会 ・ 社会福祉法人地域公益活動協議会等について
平成 27 年 11月 16 日	宮崎県児湯郡社会福祉協議会 ・ 生活困窮者自立支援事業の取組みについて
平成 27 年 11月 17 日	長崎県島原市地区社会福祉協議会連絡協議会 ・ 小地域ネットワーク活動について
平成 27 年 11月 30 日	福岡県大刀洗町社会福祉協議会南本郷区小地域協議会 ・ 小地域ネットワーク活動について
平成 27 年 12月 9 日	福岡市社会福祉協議会 ・ 居住支援協議会について
平成 28 年 3月 1 日	北九州市門司区社会福祉協議会 ・ 小地域ネットワーク活動について
平成 28 年 3月 10 日	徳島県美馬市役所 ・ 小地域ネットワークについて ・ キャロットサービスについて
平成 28 年 3月 29 日	愛媛県今治市議会 ・ 子ども食堂について

～各種会議・各種委員会報告～

(1) 理事会開催状況

会議名	月 日	内 容
第1回 理事会	平成 27 年 5月 26日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第1号…平成26年度事業報告について ・議案第2号…平成26年度収支決算について ・議案第3号…平成26年度監査報告について ・議案第4号…補欠評議員の同意について ・議案第5号…平成27年度補正予算(案)について
第2回 理事会	平成 27 年 7月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第6号…補欠評議員の同意について ・議案第7号…平成27年度補正予算(案)について ・議案第8号…経理規程の改正(案)について ・議案第9号…資金運用について(案)
第3回 理事会	平成 27 年 9月 30日	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 10月1日付人事異動について
第4回 理事会	平成 27 年 11月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第10号…定款の一部変更(案)について ・議案第11号…平成27年度補正予算(案)について ・議案第12号…まちの縁側「築町えいる」について ・議案第13号…「難病救済基金」の「福祉基金」への組み入れについて
第5回 理事会	平成 28 年 1月 29日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第14号…給与規程ならびに職員就業規則の改正(案)及び個人番号取扱規程(案)の制定について ・議案第15号…職員の内部登用制度について
第6回 理事会	平成 28 年 2月 23日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第16号…平成27年度補正予算(案)について ・議案第17号…歴木保育所通路屋根新設工事に係る契約締結方法等について
第7回 理事会	平成 28 年 3月 11日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第18号…歴木保育所通路屋根新設工事に係る契約の締結について
第8回 理事会	平成 28 年 3月 29日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第19号…平成28年度事業計画(案)について ・議案第20号…平成28年度資金収支予算(案)について ・議案第21号…評議員の同意について ・議案第22号…大牟田市学童保育所に勤務する職員の勤務時間及び給与等に関する規程の改正(案)について ・議案第23号…大牟田市立病院ホスピタルローソンについて

(2)評議員会開催状況

会議名	月日	内 容
第1回 評議員会	平成27年 5月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第1号…平成26年度事業報告について ・議案第2号…平成26年度収支決算について ・議案第3号…平成26年度監査報告について ・議案第4号…平成27年度補正予算(案)について
第2回 評議員会	平成27年 7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第5号…補欠理事の選任について ・議案第6号…平成27年度補正予算(案)について
第3回 評議員会	平成27年 11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第7号…定款の一部変更(案)について ・議案第8号…平成27年度補正予算(案)について ・議案第9号…まちの縁側「築町えいる」について ・議案第10号…「難病救済基金」の「福祉基金」への組み入れについて
第4回 評議員会	平成28年 2月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第11号…平成27年度補正予算(案)について
第5回 評議員会	平成28年 3月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第12号…平成28年度事業計画(案)について ・議案第13号…平成28年度資金収支予算(案)について ・議案第14号…理事の選任について ・議案第15号…監事の選任について ・議案第16号…市立病院ホスピタルローソンについて

(3)各部会・委員会開催状況

会議名	月日	内 容
第1回 三役会・総務部会 (合同会議)	平成27年 5月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度事業報告について ・平成26年度収支決算について ・平成26年度監査報告について ・補欠評議員の同意について ・平成27年度補正予算(案)について
第2回 三役会・総務部会 第1回経営企画部会 (合同会議)	平成27年 6月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・補欠理事の選任について ・補欠評議員の同意について ・平成27年度補正予算(案)について ・経理規程の改正(案)について ・資金運用について(案)

第1回 福祉サービス部会	平成 27 年 7月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの縁側「築町えいる」の経営状況について
第2回 経営企画部会・福祉サービス部会(合同会議)	平成 27 年 10月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの縁側「築町えいる」の経営状況について ・市立病院ホスピタルローソンの経営状況について
第3回 経営企画部会・福祉サービス部会(合同会議)	平成 27 年 11月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの縁側「築町えいる」の経営状況について ・市立病院ホスピタルローソンの経営状況について
第3回三役会	平成 27 年 11月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・定款の一部変更(案)について ・平成 27 年度補正予算(案)について ・まちの縁側「築町えいる」について ・「難病救済基金」の「福祉基金」への組み入れについて
表彰審査委員会	平成 27 年 11月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度大牟田市社会福祉協議会表彰審査
第4回 経営企画部会・福祉サービス部会(合同会議)	平成 28 年 1月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの縁側「築町えいる」の経営状況について
第3回 総務部会	平成 28 年 1月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・規則の改定及び規程の制定について ・内部登用について
第4回 三役会	平成 28 年 2月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度補正予算(案)について ・歴木保育所通路屋根新設工事に係る契約締結方法等について
第5回 経営企画部会・福祉サービス部会(合同会議)	平成 28 年 3月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院ホスピタルローソンの経営について ・まちの縁側「築町えいる」の経営状況について
第5回三役会 第4回総務部会 (合同会議)	平成 28 年 3月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業計画(案)及び資金収支予算(案)について ・改選について ・学童保育所職員の勤務時間及び給与等に関する規程の改正(案)について ・市立病院ホスピタルローソン及び築町えいるについて

～平成 27 年度 役員、評議員名簿～

[理事・監事]

選出区分	氏 名	備 考
学識経験者	西 村 直	会 長
校区社協代表	家 入 進	副 会 長
民生委員・児童委員代表	阿 津 坂 正 晴	//
学識経験者	大 戸 誠 興	常務理事
町内公民館連協代表	芳 川 勝	理 事
社会福祉事業施設代表	井 田 謙	//
福祉団体代表	大 場 和 正	//
ボランティア団体代表	杉 野 有 美 子	//
社会福祉関係公務員代表	中 園 和 彦	//
市議会代表	吉 田 康 孝	H27.5.2 辞任
//	森 遵	H27.7.1 就任
学識経験者	山 崎 安 則	理 事
//	西 山 明	監 事
//	中 川 慶 道	//

[評議員]

選出区分	氏 名	備 考
校区社協代表	汐 待 律 子	
//	三 浦 紀 子	
//	塩 塚 國 凱	
//	猿 渡 英 昭	
//	松 尾 満 次	
//	中 園 俊	H27.6.30 辞任
//	林 田 寿	H27.7.1 就任
民生委員・児童委員代表	奥 薗 繁 俊	
//	藤 井 将 也	
町内公民館連協代表	萬 矢 勝 保	
ボランティア団体代表	田 中 百 合 子	H27.5.25 辞任
//	清 田 純 次	H27.5.26 就任
NPO 法人代表	平 田 聖 子	
社会福祉事業施設代表	圓 文 昭	
//	石 井 竹 彦	
福祉団体代表	糸 原 正 則	
//	西 河 マス 子	
//	松 尾 サダ 子	
社会福祉関係公務員代表	村 上 義 弘	
市議会代表	田 中 正 繁	H27.6.30 辞任
	三 宅 智 加 子	H27.7.1 就任
学識経験者	中 尾 哲 郎	
//	安 藤 謙 治	
//	福 田 猛	
//	奥 薗 征 裕	
//	大 塚 力 久	